みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Diary Written by a Chinese Christian during the Civil War Time of the 1940’s : Introduction and Background of a Document in National Museum of Ethnology

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2010-07-27
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 韓, 敏
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003906

国立民族学博物館研究報告34(3): 455-520 (2010)

1940年代中国内戦時期のある中国人キリスト教徒の日記

──国立民族学博物館の標本資料紹介とその背景──

韓　　　敏*

Diary Written by a Chinese Christian during the Civil War Time of the 1940's: Introduction and Background of a Document in National Museum of Ethnology

Han Min

本研究ノートは，ある中国人キリスト教徒が 1940 年代中国内戦の間に綴った，1946 年 1 月 8 日から 1948 年 5 月 31 日までの 149 日分の中国語日記及びその日本語訳全文を紹介し，日記資料に基づいて，一人の市民，キリスト教徒の目から見た当時のアメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会およびその教会直轄の「農業科学試験部」の活動，戦時下の国民党軍隊と市民及び教会との関わりを整理し，資料の人類学的な背景について若干の考察を与えたものである。

日記は 2008 年に筆者が安徽省宿州市において収集し，現在，国立民族学博物館に研究資料として収蔵されている。日記は中国人キリスト教徒の目から当時のアメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会の活動，戦時下の国民党軍隊と市民及び教会との関わり方などの貴重な情報を詳細に記述したので，そこから当時の公式な文書や新聞，書籍等の出版物とは異なる情報を得ることができる。こうした種類の資料を今後，人類学的な歴史研究にどのように活用していく可能性があるかということも含めた試論を提示する。

This research note introduces a Chinese diary and a Japanese translation in the full text for 149 days written by a Chinese Christian between from January 8, 1946 and May 31, 1948. It also considers and analyzes the activity of Suzhou Christian Gospel Church belonging to American Presbyterian Mission, North, activity of Agricultural Science Examination Center of Suzhou Church and the relation among the military forces of the National Party, citi-

*国立民族学博物館民族社会研究部

Key Words：diary, Suzhou Christian Gospel Church, Chinese Civil War between National Party and Communist Party, Pearl Buck

キーワード：日記，宿州キリスト教会，国共内戦，パール・バック

zens in Suzhou and the church during the Civil War Time recorded from perspectives of a citizen and a Christian, and the anthropological background of this material.

The diary was collected by the author in Anhui Province in 2008, and is stored to the National Museum of Ethnology as research material now. Since the diary records the activity of Suzhou Christian Gospel Church, the relation of National Party's military forces, citizens and the church in detail from perspectives of a Chinese Christian, people can obtain valuable information which is different from publications such as the official document, newspapers, books, etc. at that time. This paper raises some possibilities of how to use such kind of text materials in the anthropological studies of history.

1　はじめに
1.1　日記の執筆者及び日記資料の収集経緯
1.2　日記の研究資料としての位置づけ
2　アメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会
2.1　アメリカ北長老会所属の宿州キリスト教会の歴史
2.2　「農業科学試験部」の設立とロッシング・バックとパール・バック夫婦
2.3　ミッションスクールによる最初の女子教育──啓秀女子小学校の事例
3　国民党と共産党の内戦中の宿州教会と庶民の暮らし
3.1　教会活動と農事部の農業開発
3.2　軍隊による城門管理と庶民の暮らし
4　国民党軍隊，地元政府と教会とのかかわり
5　結語

1　はじめに

本研究ノートは，筆者が 2008 年安徽省宿州市（図 1）で収集してきた，ある中国人キリスト教徒によって 1940 年代中国内戦[1)] の間に綴られた中国語の日記全文（附録 1）及び日本語訳（附録 2）を全文紹介し，一人の市民，一人のキリスト教徒の目から見た当時のアメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会およびその直轄の「農業科学試験部」（以下略称「農事部」）の活動，戦時下の国民党軍隊と市民及び外国教会との関わりを整理し，その人類学的な背景について若干の考察を与えたもので

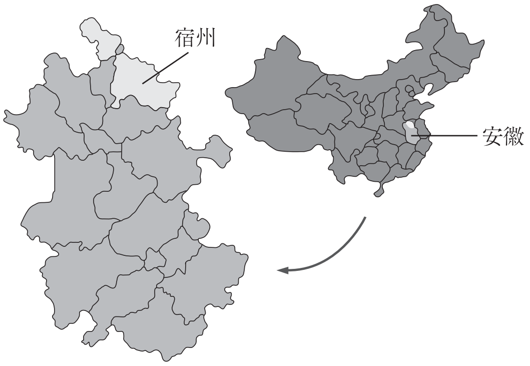


図 1　中国における安徽省，宿州市の位置

ある。

日記は 1946 年 1 月 8 日から 1948 年 5 月 31 日まで綴られ，1946 年は 38 篇，1947 年は 71 篇，1948 年は 40 篇，3 年間合計 149 日分の記録，14,585 文字によって構成されている。日記で記録されたものは，主として 1940 年代後半の国民党と共産党の内戦事情，国民党軍隊と教会との関わりの様子である。そのほかにキリスト教会による農業開発事情，戦時中の礼拝，英語教育，病院などの教会活動や，東北三省の自治，民国政府の総統選挙，集中豪雨による洪水の発生，蝗（いなご）の被害なども克明に記録され，中国キリスト教徒として内部の目からみたアメリカ教会活動及び内戦時期の宿州地域の社会史を記録したものである。中国において，該当する時期の中国人キリスト教徒の日記が発見され公表されたことはこれまでにあまり例がなく，公的な文書や出版物とは異なる情報を与えてくれると同時に，当時のキリスト教会の活動についても具体的な様子を部分的ではあるがうかがうことができると考えられる。

1.1　日記の執筆者及び日記資料の収集経緯

筆者は 20 世紀の漢族生活用品を収集するために 2008 年 8 月 3 日～ 9 日までに，中国安徽省宿州市で収集調査を行った。この地域において筆者は 1989 年から断続的に現地調査を行ってきた。収集調査の期間中に，長年にわたるインフォーマントの一人である宿州学院の S 氏の自宅を訪問した際，S 氏とその夫人は，筆者の資料収集の目的や意義をよく理解して，自分たちの使っていた 50 年代，60 年代の生活用品配給券や食品食糧品配給手帳などを見せて寄贈してくれた。その後，S 氏は学習ノートに綴られた日記を見せてくれた。それは，内戦中の宿州において，キリスト教会の一人の教徒が 1946 年から 1948 年まで綴った内戦中の人びとの暮らし，国民党軍隊と教会と

のやりとり等を詳しく記録した日記であることがわかった。S氏はこの日記（写真1）についても，20世紀の中国の庶民の暮らしの理解に役に立つ資料だとして，寄贈してくれた[2)]。

日記の執筆者は趙昇祥氏（1909–1988）であり，60年あまりの日記歴があるということであった。趙氏はS氏と同じようにキリスト教徒の家庭に生まれ，ともに同じ教会堂に通っていた幼なじみで，生涯の友人でもあった。定年になったS氏が中華人民共和国建国前の宿州に関する回想録を執筆したく，資料を探していた折，日記歴が長いことで有名な友人趙氏を訪ねたところ，内戦中に綴った自身の日記の一部を自らノートに写して1987年にS先生に寄贈したということであった。その翌年，趙氏は脳溢血で亡くなっている。

趙氏は，清末の1909年に安徽省宿県（現在の宿州市）のキリスト教徒一家に生まれた。氏の父は牧師であり，キリスト教伝道のために山東から安徽省にやってきて，一家はアメリカ北長老会所属の宿州キリスト教会堂，福音堂の中に住んでいた。趙氏は中学校を卒業してエンジニアになる夢を持っていたが実現できず，宿州の郊外，南関にあるアメリカ北長老会のキリスト教会堂直轄の農事部で一般技師として仕事をしていた。一家も農事部に引っ越した。日記の内容から趙氏が農事部の中で農作物の実験栽培などの農業技師の仕事に従事しながら，農事部の会計と財産管理にも携わっていたことがうかがえる。共産党政権の成立後，農事部は政府に接収され，国営農業科学所（略称「農科所」）となった。趙昇祥は国営農科所の技師として採用され，定年までそこで働いた[3)]。

1.2　日記の研究資料としての位置づけ

この日記は，1940年代におけるアメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会及びその活動を記録したものであり，中国におけるキリスト教会のあり方を一般庶民の立場から描写したものとして，人類学的な研究に資する資料の一つとして位置づけることができる。

日記と舞台となった安徽省宿州市は，江蘇省，山東省，河南省との境界に位置し，黄河と淮河によって形成された黄淮平原の南端に当たり，中国の沿海部と内陸部，華北と華南を結ぶ要衝にあたる。周朝のころはすでに宿国ができ，秦代に県が置かれた。隋朝には黄河と淮河を結ぶ運河「通済渠」（汴水，大運河の一部）が完成したことで宿州は汴・淮流域の交通の枢要で南北を結ぶ軍事の要衝となった。宿州市域内には新汴河，奎河，濉河など70ほどの河川が流れていて，いずれ黄河水系や淮河水系

に属している。中原という歴史上の政治争いの中心であり，複雑な水域を持っているというこの地域の地政学的特徴によって，ここは歴史的に戦争，王朝交替や病疫と洪水，蝗などによる自然災害が多発していた。

秦末から漢初にかけて発生した中国史上最初の大規模な農民蜂起，「陳勝・呉広の乱」は現在の宿州市域にある大沢郷から始まった。また楚漢戦争の最後に垓下の戦いが起きたのも宿州に近い場所であった。そして，近代に入ると，ここは国民党と共産党の間の天下分け目の戦いである三大戦役の一つである淮海戦役の主戦場ともなった。

日記はちょうど淮海戦役勃発前の 5 月 31 日までであり，当時の緊迫状態を克明に記録している。また，この地域の典型的な自然災害である洪水（1946 年 8 月 13 日，1947 年 9 月）（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 35）や蝗の発生（1946 年 7 月 14 日，15 日，16 日）も記録している。

共産党政権成立前の中国におけるキリスト教の状況に関しては，主として外国人宣教師によって記録されたものが多く，宣教師からみた布教活動の記録がほとんどである。例えば，明代の中国に渡ったヨーロッパの宣教師らによる中国におけるキリスト教布教に関する記録は，ガスパール・ダ・クルスの『クルス「中国誌」』（1569–1570），ゴンサーレス・デ・メンドーサの『シナ大王国誌』（1585），マッテーオ・リッチの『中国キリスト教布教史』（1615），アルヴァーロ・セメードの『チナ帝国誌』（1641）などの著作をあげることができる[4)]。特にマッテーオ・リッチとアルヴァーロ・セメードの『中国キリスト教布教史 1，2』（1982，1983 岩波書店）は，ヨーロッパ人宣教師の目からみた明代中国の風土，言語，慣習，政治，儀礼，宗教などの観察記録および彼らの中国イエズス会の布教活動，布教方針と戦略などを扱った報告の集大成といえる。一方で，中国国内の資料でキリスト教会の活動について記述されたものとしては，『1901–1920 年中国基督教調査資料』（原『中華帰主』修訂版）が代表的なものであり（2007 中國社会科学出版社），とりわけ，一般的なキリスト教徒による当時の様子の記録は多くは残されていない。歴史研究を人類学的な観点から進めるうえで，庶民の視座からの記録は重要であり，本研究ノートで取り上げる中国人のキリスト教徒の日記は，共産党政権成立前の中国におけるキリスト教の活動に関する貴重な資料であるといえる。

日記にはキリスト教会堂の活動，国民党政府やその軍隊と教会直轄の農業試験部との詳しいやりとりが記されている。内戦中に国民党政権は，兵士の教会駐留禁止令を出していたにもかかわらず，教会はいろいろな形で軍隊，あるいは個別の軍人に食品，

建築材，宿泊などの提供を強制させられていることが日記から読み取れる。また，内戦中のアメリカ教会及びその農業試験部は，国民党軍隊にとって軍需品物質獲得のために重要であり，国民党軍隊の脱走兵にとっては，アジト的な役割を果たしていたことがうかがわれる。同時に，地方政府や一般庶民にとっても，アメリカ北長老会所属の教会は，安全な避難場所として利用されていたことがわかる。

日記の執筆者は内戦下，不安な毎日を送りながら，一人の民間人，一人のキリスト教徒の立場から国民党政権末期における安徽省宿州の社会諸相を記録し，日記はこの地域の社会史を庶民の立場から理解するための有益な情報を提供する資料となっている。

2　アメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会

日記の執筆者が所属し，働いていた安徽省宿州キリスト教会（Suzhou Christian Gospel Church）（写真 2）は，アメリカ合衆国北長老教会（American Presbyterian Mission, North，略称 PN）の中国における江安教区（Kiangan Mission）に属していた。この教会の改革開放後の布教活動の再開及び信者の入信状況（写真 3，4，5）について，筆者は 1989 年から断続的に聞き取り調査を行ってきた（韓 1999; Han 2001）。

2.1　アメリカ北長老会所属の宿州キリスト教会の歴史

宿州キリスト教会の始まりについて，宿県地区の地方誌には次のように記載されている。

アメリカ人である羅炳生（中国語の発音は Luo Bing Sheng。英語表記不明）が，1906 年にアメリカ合衆国北長老教会によって派遣され，宿県で伝道を開始した。続いて，1912 年アメリカ人伝道師の賈徳（中国語の発音は Jia De。英語表記不明）夫婦が来て，宿県の城の中の大河南街という場所に土地を購入して，教会堂を建てた（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 528）。宿州のキリスト教会の開始時期について『1901–1920 年中国基督教調査資料』では，1913 年と記載されている（中華続行委弁会調査特委会編 2007: 1462）。

教会堂の名前は「福音堂」で，当時，この教会所属のミッションスクールで教鞭を執っていた邵氏の記録によると，教会には数人のアメリカ北長老会（差会）の牧師がいた。教会が建てられた場所は，当時宿州の繁華街の東西の大通り「富貴街」で，清朝末期から民國時代初期にかけて，官僚や地主といった経済的な富裕層が密集してい

た大河南街である（邵 2008: 38）。

教会は福音堂教会を中心に周囲の農村にも布教活動を行い，福音里，福音村を作り，そのほかに男子校，女子校，病院，農事部を創設し，学校教育，医療活動と農業開発の事業も行っていた。たとえば，1906 年，東門大街の関帝廟の中に建てられた「含美小学校」という男子校，1914 年大河南街の西側に作られた宿県私立啓秀女子小学校（のちの宿州啓秀中学），成人女性教育のための啓徳婦女学院，1916 年宿州の郊外，南関に創設された民愛医院（Good Will Hospital）という総合病院[5] などは，それらにあたる。

初期の教会は，アメリカ北長老会から派遣されてきたアメリカ人牧師によって運営されていた。1912 年にはアメリカ人宣教師賈徳が宿州に来て伝教していたが，1920 年には，賈徳牧師が病気のため，妻と一緒にアメリカに帰国した。その後，アメリカ人牧師の George, C. Hood が替わりに来て，その仕事をつづけていたとされている（邵 2008: 13）また，1921 年アメリカ国籍の文懐思が山東出身の中国人宣教師徐覲廷と曹子甫と一緒に宿州に来て布教活動をしていたという記録も残されている（安徽省宿県地方志編纂委員会 1988: 383）。

1923 年に，教会は山東省出身の中国人牧師生熙安（邵 2001: 70–72; 黄 2009）を初めての中国人牧師として迎え，その後，教区の範囲は，宿州周辺の霊壁県，泗県及びその郊外の農村までに拡大し，教徒の数も 1400 人に上った。1924 年には，信者の寄付金で福音堂の中に建築面積 600 平米の立派な瑠璃瓦の大講堂が建てられた（写真 3）。

1927 年にアメリカ人牧師が帰国して，教会は中国人牧師によって運営，管理されるようになった。その間，1932 年から 1949 年までの間，アメリカ人が 2 回にわたって宿県に来て，教会の運営に携わっていた（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 529）。1941 年の太平洋戦争勃発以後，この地域は日本軍の占領下にあったため，教会にいるアメリカ国籍の牧師はアメリカ北長老会の命令で全員一時帰国した。このことについては S 氏の日記の中でもふれられている。

共産党政権成立後の 1951 年に，宿州教会は，中国の他の地域のキリスト教会と同じく，「三自愛国委員会」を成立し，「自治，自養，自伝」という原則[6] の下に布教活動をつづけていたが，文化大革命の間，宗教活動が完全に中止された。聖職者が批判され，教会の建物も没収され宿県ラジオ放送局の建物として転用された。

1979 年以降，新しい宗教施策が実施され，1982 年，憲法で再び公民の宗教信仰の自由が保証され，政府機関に宗教活動を管理する宗教課も設置された（韓 1999: 50）。没収され役所，学校，放送局，工場などに転用されてきた教会堂や施設は，少しずつ

返還が進められた。宿県ラジオ放送局に転用された宿州教会堂も返還され，1985 年に正式に再開された。1987 年末の時点では宿県地区（宿州市，蕭県，碭山県，霊璧，泗県）のキリスト教徒の数は 76,365 人，教会堂は六つ，農村地域の活動センターは 205 ヶ所にのぼった（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 529）。共産党政権成立直後の 5,473 人の教徒数と比べて，規模が拡大された。現在宿州キリスト教会の教徒数は 20 万人に上っている（黄 2009）。

2.2 「農業科学試験部」の設立とロッシング・バックとパール・バック夫婦

日記の執筆者が長年働いたのは，アメリカ北長老会が宿県城外の東南の郊外に創設した「農業科学試験部」である。宿州地元の文献及び人びとの会話の中で「農業科学試験部」のことが「農事部」と略して称されているので，以下「農事部」とする。

農事部は民国初期にアメリカ北長老会所属の宿州教会によって創設された。農事部の目的は，伝統的中国の農業に西洋流の農法及び農業機械を導入して農業開発を進めることであった。宿州農事部に関する文献は，パール・バックの『私の歩んだ世界』（1958），『宿県県志』（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1988），『宿県地区志』（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995），邵体忠氏の回想録（邵 2001; 2008），西澤治彦氏の論文（2002; 2003）等をあげることができる。本研究ノートで扱う日記と照らしあわせながら，当時の状況について記述していくことにする。

農事部の設立時期に関して，『宿県県志』の「大事記」においては「1912 年にアメリカ人が宿城においてキリスト教会を建て，農場を作った」と記録されている（安徽省宿県地方志編纂委員会 1988: 18）。『宿県地区志』の「大事記」でも「アメリカ人が宿城においてキリスト教会を建て，農事部を創設し，農場を作った」と似たような内容のことが記載されている（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 21）。一方，同じ『宿県地区志』の第三章宗教の部分においては，1917 年 5 月 13 日ロッシング・バックはパール・バックと江蘇省鎮江で結婚したあと宿県に移ってきて，「（夫の）バックが宿城の南関に農場（教会農事部）を創設した」と記録されている（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 528）。西澤の調査によると，「農事部――差会によって派遣された，アメリカ人のバックが 1913 年，宿県の東関観音堂の南側に創設したもので」である（西澤 2002: 134）。

上記のように宿州農事部の成立時期に関する記録は一致せず，5 年間の差があるが，民国初期にアメリカ北長老会所属の教会によって創設されたことはほぼ間違いない。

農事部の最初の責任者はロッシング・バック（Lossing Buck）である。ロッシング・バックは，「アメリカ北長老会が派遣された宣教師」（中華続行委弁会調査特委会編 2007: 1585）であるが，現在，一般的に中国農業経済学者として名前が知られている。1914 年アメリカのカーネル大学を卒業したロッシング･バックは, アメリカ北長老会の中国派遣に応募し, アメリカ北長老会の農業技術者として中国に派遣され, 安徽省宿州に配属された。宿州についたのは, 1915 年 12 月のことで, その後, 南京で数ヶ月の語学研修を受けて, 再び宿州に戻り, 宿州の郊外南関に農事部を創設した。彼は, 自然災害によって苦しめられた中国農民のために病気や災害に強く，成熟時期の短い小麦の品種栽培を試み，西洋の近代的機械を使用する農法を農民たちに教えようとした。

ロッシング・バックの妻は，*The Good Earth*（1931）（『大地』1953）の作者で 1938 年ノーベル文学賞受賞者でもあるパール・バック（1892–1973）である。彼女は，初期の農事部に関して，『私の歩んだ世界』の中で「市外には小さな農場があって，そこで私の主人が種子とりの実験をしていて，私どもの雇った一人の農夫が住んでいたのだ」と述べている（バック，パール 1958: 106）（写真 6，7）。邵の記録はもう少し詳しく「ロッシングは初代の責任者となった。主として水稲と小麦の種の改良，選種を行っていた」とされている（邵 2008）。

上記の記述からみると，当時の農事部の規模はそれほど大きくはなく，主として小麦等の栽培植物の品種改良に取り組んでいたことがうかがわれる。のちになって農事部の規模が拡大され，その下に三つの農業試験場が置かれた。農事部で働いていた中国人技師は，丁震亜，李其田，馬立炎，王伯栄と趙昇祥（邵 2008: 46），三里穹から雇われた毛という苗字の農夫などがいた。そして農事部の仕事の内容は，初期の麦と水稲の種子の試験のほか，トマト，オオムギ，大豆，イチゴの種子試験もやり，大芦花鶏，九斤紅鶏などの品種の鶏の飼育試験も行っていた。

農事部による農業開発は，地域の農作物の品種改良のみならず，農業機械化の推進も含んでいた。安徽省宿県地区地方志の記録によると，「宿県地区における農業機械の初めての使用は，民国 23 年（1934 年）にさかのぼることができる。当時，アメリカ人宣教師が宿県城内に教会堂を建て，その下に農事部を設置した。アメリカからフォード 25 型のトラクターと一部の農具が送られてきて農事部に所属している三つの農業試験場で使われていた。農場周囲の農民たちは，生まれてからはじめてトラクターをみたので，大いに見聞を広められた」とある（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 180）。

農事部の事業内容とその機能については西澤が「優良品種や新式農具，最新技術の

普及などを主に行い，併せて蔬菜の栽培や林業，養蚕なども試みた」として，上記の文献と同じ内容のことを指摘した（西澤 2002: 134）。

しかし，1910年代，20年代の中国は，軍閥による戦乱と世界列強による半植民地的支配などの現実問題に直面し，農業開発にはそれほど意識はむけられていなかった。宿州における5年間にわったバック夫婦の努力は確かに伝統的農業地域に近代的な息吹を吹き込んだが，その結果はロッシング・バックの期待とはほど遠いものであったようである。

ロッシング・バックは，さまざまな努力をしたにもかかわらず，結局西洋式の農業生産技術の推進に挫折したあと，南京大学（当時の金陵大学）の教授公募に応募して，1921年安徽省宿州を後にして，南京に向かった。

> 「主人は，古くて確立している農業に西洋流の農法を応用する方法がわからなくて焦りを感じていたのだった。一人で研究するよりもどこかの集団に加わった方がよかろう，と，いいだしたのだ。大学の農学部の学生に教え，彼らに実際上の応用をやらせることができるのだからだ」（バック，パール 1958: 117）。

南京大学の教授となったロッシングは，大学を拠点に中国全土で大規模な農村・農家調査を実施し，その成果を，*Chinese Farm economy*（日本語訳『支那農家經濟研究』，と *Land Utilization in China*（日本語訳『支那経済論』）にまとめ，それぞれ1930年と1937年に出版した。これらは今日でも当時の中国における農業の実態を理解するうえでの最も重要な資料とされている。一方，妻のパール・バックはその後安徽省宿州での生活経験を元に名作の *The Good Earth*（日本語訳『大地』）を仕上げた。

1924年にロッシング・バックは南京から再び宿州に戻り，農事部で農業・林業の技術者を育成する「林墅職業学校」を創設し，自ら校長に就任した。彼は農事部の馬氏を教務と実験の責任者に任命し，南京から定期的に宿州に戻って授業を行った。当初50名の学生を募集したが，社会的情勢の不安定，校長が現地にいないなどの理由から「林墅職業学校」は一期のあと，中止した。

アメリカ人牧師，農業技師たちの努力は80年後の現在，中国安徽省の地元で再評価されている。

> 「バックたちは，文化侵略ではなく，誠心誠意で中国を助けようとしていた。…バックがはるばると宿州の農業生産に注いだ苦労と精力，宿州の農民たちとの間の誠実な友情は，よい思い出として永遠に中国と米国との農業交流の歴史に残っている」（邵 2008: 32）。

2.3　ミッションスクールによる最初の女子教育──啓秀女子小学校の事例

宿州の女子学校教育は民国初期にアメリカ北長老会所属の宿州教会によってはじめられた。1914 年アメリカ北長老会は，宿州の大河南街の西側，福音堂の近くに「宿県私立啓秀女子小学（Qi-Xiu Girl School）」を設立した。これは，宿県において初めての女子校である。当時の教会の責任者であるアメリカ人牧師賈徳の妻が初代校長を務めた。教員は主に中国人で，生徒は主に中国人キリスト教徒家庭の子供である。

「女子無才便是徳（女は無才であること自体が徳である）」という男尊女卑の考え方が歴史的に根付いていた中国社会において，20 世紀初期には，女子の学校教育がまだ盛んではなかった。「当時，宿州の啓秀女子校はわずか甲乙丙の三つのクラスによって構成され，それぞれのクラスの生徒数は十数人であった」とされている（邵 2001: 15）。

カリキュラムの内容は伝統的儒教的塾のものとは違って，中国語，英語，算数，博物，理科，体育，音楽，宗教などの西洋的近代教育の性格をもつ構成であった。初代の校長，賈徳牧師の夫人が夫の病気のため，1920 年に夫婦二人でアメリカに帰国した後，パール・バックはその後任として学校の運営を仕切っていた。パール・バックの教え子たちが次のように学校生活を記憶している。

> 「パール・バックは，学生たちに優しく，彼女たちの勉強と生活をよく世話した責任感の強い先生であった。学校の休憩時間になると，パール・バックは女子校の生徒と一緒に縄跳び，毽子（ジェンズー）（けばね）などの遊びをしていた。クリスマスになると，ホールに一本のカラフルなクリスマスツリーが置かれ，木の上にカラフルなリボンと蝋燭が飾られている。パール・バックは学生と一緒に聖歌を歌ったり，キリストの話をしたりした。他の先生がサンタクロースに変身して，参加者全員に小さなプレゼントを配っていた」（邵 2001: 19）。

この啓秀女子校についてパール・バックは，前掲著の中で，

> 「屋敷の中での私のおもな関心は，私が責任をもつ女子校のことだったで，昔の少女時代の友人の一人を教頭として鎮江から招いた。彼女は若くて熱心な有能な先生だったので，この人はりっぱな仕事をたくさんしてくれるものと期待していた」（バック，パール 1958: 115）。

このことは邵氏の回想録の中でも記録されている。

> 「彼女は友人のアメリカ人である甘女史を呼んできた。甘女史は熱心で仕事がよくできるので，学生から尊敬されていた」（邵 2001: 19）。

啓秀女子校は1945年以降，中学部と高校部ができて，宿州地域の近代女子学校教育に不可欠な役割を果たしてきた。女子校を卒業した生徒たちは後に学校の教師，校長，医者，病院の院長になったり，大学で教鞭を執ったりして，キャリアウーマンとして活躍していた[7)]。啓秀女子校卒業生の馮毓淑（のちの馮秀媛）はその例である。彼女は1926年に啓秀女子校の校長になり（邵2001: 49; 2008: 5），社会主義建国まで女子教育に携わっていた。

上記の資料と当事者の回想録からアメリカ北長老会のミッションスクールは宿州地域における女子の近代学校教育を開始し，多くの女性人材を世に送り出したことがうかがわれる。

共産党政権成立後，人民政府がこの教会学校を引き取り，1952年から共学の学校にし，名前は「啓秀中学校」から「宿城第一初級中学」に変えられた。

3　国民党と共産党の内戦中の宿州教会と庶民の暮らし

日記の初日は，1946年1月8日であり，すでに国民党と共産党による内戦が勃発した時期である。キリスト教徒であり，教会所属の農事部に住み込みで働いていた日記の執筆者は，教会活動，農事部の農業開発，軍隊による城門管理と庶民の暮らしについて綿密に記録し，今日の内戦時期の地域社会史に対する理解と研究に貴重な資料を残している。

3.1　教会活動と農事部の農業開発

日記によれば，内戦中でも宿州キリスト教会の日曜礼拝，水曜日のお祈り会，学校，病院，農事部などの運営は通常通り行われていた。

日曜礼拝（1946年3月17日，1947年10月5日）に関して，たとえば，1947年10月5日の日曜礼拝において，許牧師が『聖書』の使徒言行録17章：22–31節について話をした記録がある。また，日曜日に礼拝以外に，牧師が英語の授業を行っていた（1948年1月18日）。受講者には，宿州の警備担当の士官も含まれていた（1948年3月2日）。日曜礼拝のほかに，お祈りの会も毎週水曜日に行われていたようである（1947年12月3日）。

内戦中の農事部は，民国初期にアメリカ北長老会派遣の農学者，ロッシング・バックが創設した当初より規模が拡大されており，数多くの農作物の新しい品種と植物の栽培が行われていた。たとえば，農事部が開発された新しい品種のコウリャン及びそ

の普及が地元で話題となっていることがわかる（1947 年 4 月 20 日）。そして，農事部の開発した新しい品種の 141-9 号の麦が地元の宿県農業推進会に購入されることも記録されている（1947 年 8 月 25 日）。激しい内戦の中，趙氏とその他の中国人農技師たちは，必死に農事部を守ろうとし，実験用の大豆の場所を移し，火の手を避けるようにしていた（1947 年 9 月 30 日）。混乱の中でも，通常通り，大麦の栽培（1948 年 1 月 18 日）や麦の収穫（1948 年 5 月 31 日）を行っていたことも読み取れる。

日記の中に名前が頻繁に出てくる丁震亜は，大豆と麦の専門家である。宿州の西北郷古饒集の農民の家庭に生まれ，安徽省立第四農業学校を卒業した彼は，南京金陵大学農学院で研修をしたあと，1924 年にアメリカ教会経営の「宿州農業科学試験部」で働くようになり，豆と麦の品種改良に励んでいた[8)]（邵 2001: 46)。

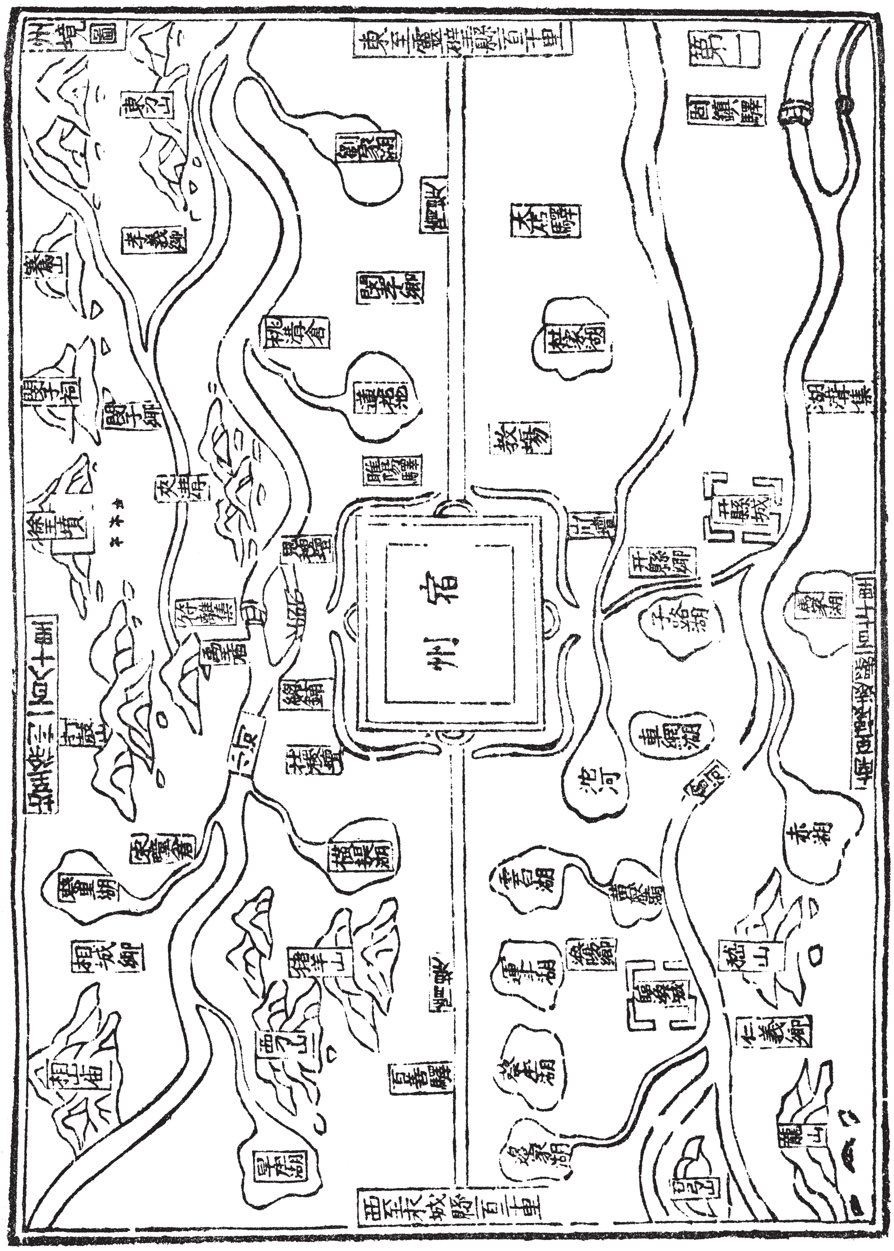
日記によれば，農事部は農作物のほかに，アカシア（1946 年 4 月 8 日），青桐（1947 年 3 月 21 日，10 月 2 日），百日草（1946 年 7 月 9 日），東洋菊（1947 年 7 月 16 日），トウサイカチ（1947 年 12 月 23 日），ハナズオウの花（1948 年 3 月 31 日）など，数多くの植物を栽培していた。

3.2　軍隊による城門管理と庶民の暮らし

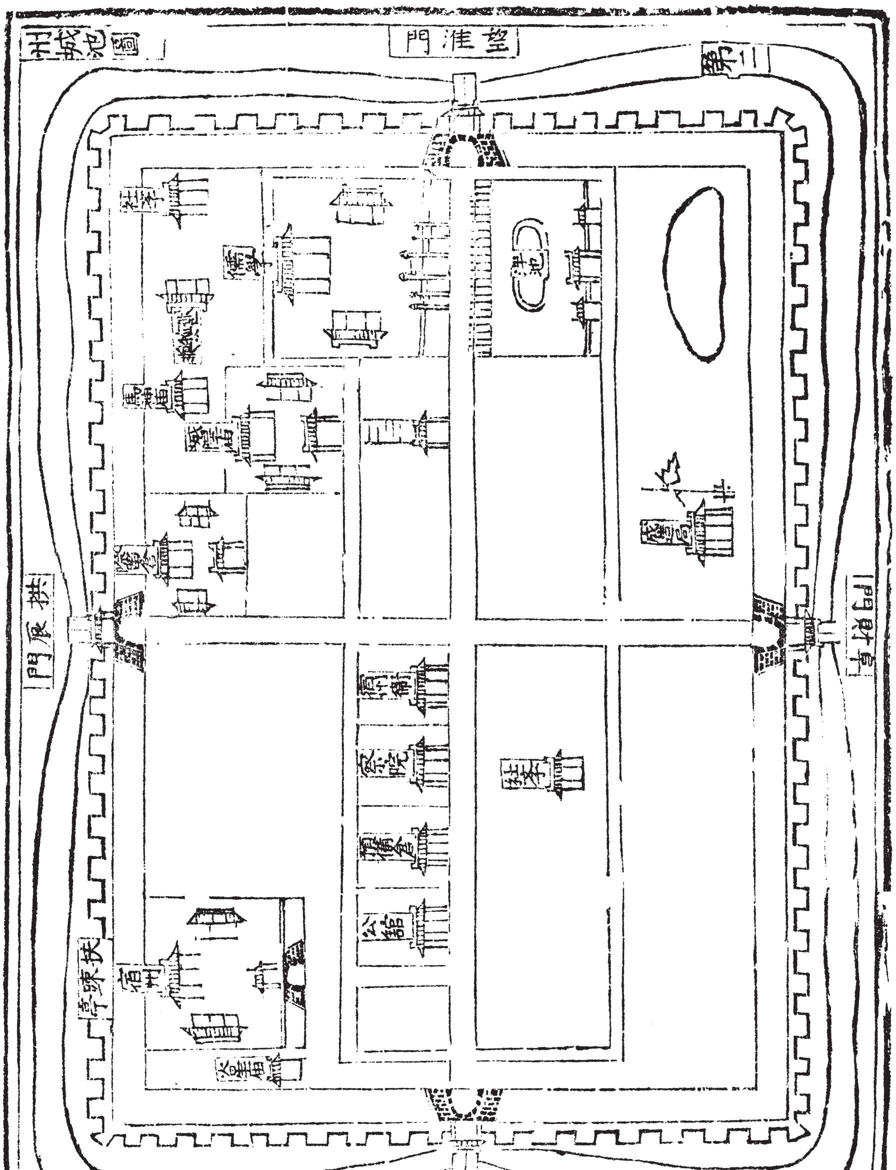
宿州は，1949 年の中華人民共和国建国まで城壁に囲まれた町であった。城壁は 600 年前の明の朱元璋の時代，洪武 10 年（1377 年）に，石と煉瓦で作られたものである。宿州城は，東関，西関，南関，北関の四つの関所があり，それぞれの関所には，東の望淮門，西の連汴門，南の阜財門と北の拱宸門が作られていた（余・徐・張編纂 1982，崔ほか纂修 1985）（地図 2，3)。また四つの城門の上に「戍楼」というやぐらが設置されていた。

かつて宿州に 4 年間（1917 年 5 月から 1921 年秋まで）も住んだことのあるパール・バックは自伝の中で当時の宿州城門について次のように記載している。「四角ばって角ごとに煉瓦の塔の月濠に囲まれた市の城壁があった。鉄でしめつけた大きな木の門は夜になると匪賊や放浪する兵隊を防ぐために閉められ，朝，開かれた（バック，パール 1958: 97)。

ところが，内戦中の 1948 年の冬，宿城に入って陣地を固守した国民党軍隊に対して，共産党の解放軍が大砲を用いて開城を迫った。そのために，城壁は数ヶ所が壊されて倒れた。さらに中華人民共和国が成立されてから，宿州の城壁は首都北京の城壁と同じように解体され，古い城壁の土台の上に環状線が造られた。ただし，城壁の上にある遺跡，「扶疏亭」を保護するために，一部の城壁を残すことになった（韓心栄



地図２　宿州の城　明代『嘉靖宿州志（安徽省）』より



地図3　宿州の四つの城門　明代『嘉靖宿州志（安徽省)』より

2007）（写真8）。

日記によれば，1940年代の内戦中に，国民党軍隊は共産党の八路軍と新四軍を防ぐために戒厳令を実施し，宿州城を閉鎖し，城門の出入りを管理していた。最初は，複数の城門が閉鎖され，「小東門のみが開いていて，出るのは良いが，入るのは許されていない」（1947年9月30日）。情勢が厳しくなると，一般人が城から出ることさえも禁止されるようになり，「軍人じゃないと城から出られない」状態になった（1947年10月2日）。「一般人は，一日中，家の門から外に出てはならず，公用がある人だけ往来することができる。」「丁震亜が城内から出たのは，カトリック教会堂から『宿県軍民連合救済会』の赤十字の腕章を借りてきたためだった。そうでなければ城内を出るのは依然として困難である」とされている（1947年10月4日）。また，軍隊は警備の都合から，城内と城外の区別をするために夜は各家の門前に明かりをつけるように命令した（1947年10月4日）。

戒厳令によって封鎖された城内は必然的に生活必需品が不足するようになり，物価の高騰といったことも生じていたようである。「小麦粉，まき，野菜が尋常ではないほど不足していた。ねぎは1斤1,000元以上，小麦粉は1斤5,000元もする」（1947年10月4日）。城内の民間人の間の物質不足の問題は，増える一方の駐留軍隊によってますます厳しくなっていたことが日記から読み取ることができる。

> 城内で兵糧の徴収があった。兵糧の貸し出しの取り調べもあった。その数は合わせておよそ10万斤で，そのうちの2万斤は20戸の金持ちの家に割り当てられている。だから，薛夫人がやって来て徴収の小麦粉をさらに割り当てした」（1947年11月21日）。

城外に位置している農事部も，戒厳令による被害を受け，国民党軍隊のため食品の提供が強制された。趙氏は次のように国民党軍隊の城門管理と民間人の物質提供の強制に対する不満と不平を記録している。

> 「午前に城内の兵士が東のあたりの民家で白菜を欲しがり，野菜畑の主人とけんかになった。国民党の軍隊は城内のみを守り，城門を守らず，城門の外側の人を城内に入らせない。しかし，小麦粉やまき，野菜を必要とするときは，いつも関外の人からとっている。〔国民党の軍隊は〕関外の人を保護しようとしない。単昌は城内の軍隊のために，観音堂で一軒一軒の民家を訪ねて，小麦粉を集めている」（1947年10月3日）。

一方，国民党政権支配下のこの地域の民間人は，宿州に迫ってくる共産党軍隊である八路軍に対する知識をもっておらず，不信感や恐怖感を抱いたようである。

> 「八路軍が両半張家〔地名〕にやってきたらしい。まもなく連発した銃声が聞こえてきた。

不安になってきて字も落ち着いて書けなくなった」(1947 年 9 月 30 日)。

「私は人夫に刈り取った豆を集めさせた。また，私も自分の貴重品を提げ籠のなかに集め，運べるようにした。〔妻の〕錫栄に必要な衣服を包ませ，防火のためいつでも持ち出せるようにした」(1947 年 9 月 30 日)。

「たくさんの民間人が小銃，機関銃の掃射，大砲の爆撃の中で命を懸けて東関から南か西へ逃げた」(1947 年 3 月 10 日，9 月 30 日，10 月 1 日)。

10 月 2 日に，共産党の新四軍によって一時的に攻め落とされた宿州城は，再び国民党の軍隊の手に戻った。新四軍が去り，国民党の軍隊が入城した直後の様子について趙氏は日記に克明に記録した。趙氏はその日の朝「7 時，大門で見ていると，戦乱から逃げて行った人たちが次々と戻ってきた」。彼はすぐに「南関に同僚や旧友を見舞いに行き，戦地も巡視してきた」。砲弾のあとがあちこちあった。「病院の南側の壁と町中には，標語が貼り尽くされていた。そこには，「政治協商会議路線を堅持し，蔣介石の独裁に反対しよう。民主自立を堅持し，アメリカの侵略に反対しよう。蔣介石軍隊の兵隊は銃口を反対側に向けよう。すべての愛国知識人が早く人民の側につくようにしよう。蔣介石は国を損ない人々に災いをもたらし，解放軍は国を守り，民を保護する。倉庫を開けて，救済する。解放軍こそ人民の軍隊だ」とあった。下には「解放軍宣」と署名されていた。貼られた布告は新四軍のもので，軍長は陳毅だった。六つの項目があり，「1. 捕虜を殺さない，2. 蔣介石軍の兵隊の投降を迎え入れる，3. 信仰は自由とする，4. 交通，郵政，学校，工場を保護する，5. 生産が損失を受けないようにする…」となっていた」(1947 年 10 月 2 日)。

上記のような街角に貼られた標語やポスター以外に，戦時中の国内外の情報やニュースや情報に関して，人びとは主として新聞と口コミによって得ていたようである。たとえば，趙昇祥が読んだ新聞は，主に南京政府発行の『救国日報[9]』，『中央日報[10]』上海版，『南京中央日報』の 3 種類である。趙氏が読んだ新聞記事の中で，地元の宿県教育局長，馮毓金の汚職問題が暴露されたものは興味深い。宿県教育局長の馮毓金は「学校教科書の販売を請け負っていた。売値は書店の約二倍で，そのことが新聞に掲載された。『救国日報[11]』，『中央日報[12]』上海版，『南京中央日報』の 21 日の社会コラムなどに出ていた。合計で五回という多さで，〔その記事は〕赤い筆で囲まれ，街中に張り出されて罵られた」とされている（1947 年 9 月 22 日)。

内戦中の宿州の人びとは，戦争の苦しみを味わっただけではなく，大水被害（1946 年 8 月 13 日，1947 年 9 月 18 日）と蝗害（こうがい）（1946 年 7 月 14 日，7 月 15 日，16 日）にも遭遇した。

「1947 年 9 月 5 日からまた河の水が増え始め，12 日に最高水位に達した。夏の水勢と同

じくらいの多さである。東にあるつり橋は，橋梁の横木まで水位が上がってきている。南の城門の外側にある橋下の石のうえに座れば，洗濯ができるぐらいになった。南河の水は道路わきの用水路を流れて福音里の門に至っている。河の堤はまだ決壊していないので，畑には水が入っていない。16日から水がだんだん引き始め，18日に1尺ぐらい引いた」（1947年9月18日）。

この水害は『宿県地区志』の中でも1947年の出来事として次のように記載されている「9月，宿県，霊璧と泗県は大水が起こった」（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 35）。

1946年の蝗害については，趙氏は次のように記録している。

「7月14日ときどき曇り　蝗（いなご）。午後2時にたくさんイナゴがいるのをみた。大門の外に行ってみると，たくさんのイナゴが東北から西南に向かって飛んでいった。真南のほうは雨が降っているようで，イナゴが引き返して北に向かって飛んでいった。大雨がしばらく降っていた。辺りにはたくさんのイナゴが落ちていた。

なかには東や南に飛んでいくものもあったが，多くは南や西南から北や東北へと飛んでいった。夜にもまだ南に飛んでいくイナゴがいた」。

趙昇祥の目に見えるような蝗害の描写は，パール・バックの『大地』に出てくる農作物を襲う恐ろしい蝗の大群を連想させる（バック，パール 1992: 245）。いままで発見されたもっとも古い明代『嘉靖宿州志』の中では，蝗の大量発生，農作物に与えた被害の恐ろしさが記述され，蝗災は水害より酷いと記載されている。大量の蝗は，通過した土地のあらゆる草木を食い尽くしてしまうので，中国において，蝗害は水害と旱害に並んで恐れられてきた災害であった。

日記の中に，伝統的年中行事に関する記録が一ヶ所ある。旧歴の中秋節（1946年9月10日）の日に，多くの人びとが爆竹をならして祝った。旧暦（農暦）の8月15日は，中国の三大節句の一つ，「中秋節」である（残りの2つは旧暦の正月である「春節」と旧暦5月5日の「端午節」）。家族や親しい友人が集まり，月を愛でて月餅という菓子を食べる風習がある。厳しい内戦の中，人びとが爆竹を鳴らして「中秋節」を祝ったのは，平和な暮らしに対する気持ちの表れとも受けとれるだろう。

4　国民党軍隊，地元政府と教会とのかかわり

宿州は中国の東西南北を結ぶ交通中枢にあたるため，歴史的に紛争の地であった。内戦中も主戦場となり，多くの軍隊が頻繁にここを通過したり，駐留したり争いを繰り広げた。日記によれば，1946年1月8日から1948年5月31日までの149日に，

国民党の砲兵（1946 年 11 月 11 日），パラシュート部隊（1947 年 10 月 2 日），装甲車部隊（1947 年 10 月 7 日，1948 年 5 月 31 日），物資輸送担当の汽車兵（1947 年 10 月 4 日）など数多くの兵隊が宿州城内と郊外に駐在していた。兵士たちは，教会，病院，学校，金持ちの民間人の家に物資の提供と宿泊の場所を強制していた。

戦時中の外国教会の扱いについても日記は触れている。当時，国民党政府国防部陸軍総司令の顧祝同[12] 兵士を教会に宿泊させるのを禁止する内容の布告（1946 年 3 月 14 日），国民政府主席蔣介石がその内容の自筆の命令の写真（1947 年 12 月 2 日）を配布していた。また，『公報』には「各地部隊に，占拠していた教会施設から出ることを命ずる」という内容の国防部命令も掲載されている（1947 年 2 月 8 日）。

教会における兵士の駐留は表むきは禁止されていた。国民党軍は教会駐留禁止令を守ることになっていたが，むしろ禁止令は無視された場合が多く，結果として教会及びその附属施設が大いに戦争に巻き込まれていたことが，趙氏の日記から読み取ることができる。

宿州キリスト教会のもっとも重要な施設である福音堂は，大勢の兵士が宿泊し，国民党軍隊の司令部もここに設置されていた。福音堂の出入りは身分証明書が必要であった（1947 年 10 月 4 日，5 日）。また，教会所属の福音村も，兵士が住んでいて，連隊司令部は福音村 5 号の童氏の妻の実家に設置された。連隊長は 2 時間しか使用しないと言ったが，交渉の結果，使用時間は 30 分にして，その後，別の場所を探すことにしてもらった（1948 年 4 月 19 日）。

教会所属の農事部の中にトーチカなどの軍事施設が作られていた（1947 年 12 月 7 日，13 日）。トーチカ作りのために必要な煉瓦や瓦は教会敷地の壁などが解体されて用いられた（1948 年 3 月 2 日）。国民党軍隊は，さらにスペースのある農事部を訓練場として使用し，閲兵台も作り，射撃訓練さえも行っていた（1947 年 12 月 13 日，12 月 19 日）。

軍隊は炊飯燃料用のわらから，軍事工事用の木材，瓦，煉瓦までをすべて農事部から購入したり，無理矢理収奪したり，許可無しに敷地の建造物を解体したり，馬を連れて敷地内の草を食べさせたりしていた（1946 年 8 月 20 日，10 月 28 日，11 月 20 日，1948 年 3 月 14 日，15 日，16 日）。

そのようことが起こるたびに農事部の財産管理担当の趙氏は，やりとりの様子を記録し，国防部の通告や布告，アメリカ教会の財産所有権を理由に，持っていかれたものを取り戻すように交渉に出て，自分たちの生活環境を必死に守ろうとしていた（1947 年 2 月 8 日，9 日）。

また，宿県地元（現地採用の兵士）の兵士も同じように風紀が乱れてきて，農事部に住んでいる人から懐中電灯と綿入れの着物，子どもの服などを収奪していた（1947年 10 月 3 日）。趙氏は後日，とられたものを取り戻すために強奪をはたらいた兵士に苗字を聞いたら，天[14] だと答えたという（1947 年 9 月 27 日）。兵士の傲慢ぶりと秩序の無さがうかがわれる。

とにかく内戦中の国民党軍隊は風紀の乱れが顕著になり，勝手に教会農事部の敷地内に入り，花[15] や草をとったり枝をとったり，木を切ったりすることは日常茶飯事のように頻発していた。日記の中には国民党兵隊のみならず，農事部の人の腕時計，万年筆が共産党の八路軍に持っていかれたことも記録されている（1947 年 10 月 3 日）。

国共内戦が緊迫になるにつれて，国民党軍隊から数多くの脱走兵が出たことも記されている。農事部に身を隠そうとする脱走兵のこと及び農事部の対応が具体的に以下のように記録されている（1947 年 10 月 8 日，9 日，1948 年 2 月 18 日）。

> 「午後に二人の兵士が隠れにきた。兵隊になりたくない，家に帰りたいたいという。家は〔安徽省〕蒙城にある。まず私のところに逃げ込んできた。私は彼らに裏庭の丁震亜の見張り台の上に行かせた。夕食の後で彼らを見に行き，麺類を食べさせた。一人は普段着がないというので，私は普段着を探してきて彼にあげた。脱穀場の麦わらのなかで眠らせた。背の低いほうは王さんといい〔安徽省〕太和県の出身で，高い方は高さんといい蒙城の出身だという」（1947 年 10 月 8 日）。

この日に趙氏が助けた脱走兵は，いずれも趙氏と同じ安徽省出身であった。ほかの脱走兵と比べて，趙氏はこの二人の脱走兵について，食べものの援助や普段着による変装などの作戦も詳しく記述していることから，彼らを助けた背景に同郷意識が働いたことがうかがえる。

教会及びその附属施設は，安全な場所として軍隊の脱走兵のみならず，宿県政府にも利用されていた。宿県地区行政専署が爆撃を受けたあと，専署の最高行政官である専員が宿州教会の礼拝堂にある演壇の下の地下執務室に移ってきて，それまで地下執務室を使用していた許牧師はそこから出ることになった（1947 年 10 月 4 日）。また，宿県知事の夫人と二人の子ども，弟の嫁もミッションスクールの啓秀女子校に移り避難していた（1947 年 10 月 2 日）。

また，民間人や政府機関から貴重品を預ける依頼がいくつかあったようである。例えば，民間人の陳老三のわらを預かったり（1946 年 3 月 14 日，。宿県県立農場が人力車一台分の農具，と穀実線虫病の麦を除く汰除機 3 機を農事部に預け，途中で預かり物を確認したりして，最後に持ち帰ったことが記されている（1947 年 4 月 12 日，11 月 7 日，10 日，25 日，12 月 10 日）。

5　結語

本稿で取り上げた日記は，中華人民共和国の誕生する前の内戦時期における教会活動を記録し，その内容は礼拝活動のほかに，農業開発，女子教育，病院福祉など多岐にわたっていた。アメリカ北長老会所属の安徽省宿州キリスト教会は，20 世紀初頭に宿州において伝道をはじめ，100 年の激動の歴史を，常に地元の民衆とともに歩んできた。現在，信徒の数は 20 万人に上っている。そして，近年安徽省宿州地域において，アメリカ北長老会所属の宿州キリスト教会の歴史や農事部の創設者のロッシング・バックと彼の妻 *The Good Earth*（1931）（日本語訳『大地』1953）の作者，ノーベル文学賞受賞者のパール・バックの功績に対する再評価の動きが出はじめている。こうした状況を理解するためには，同教会がもつ，社会的，歴史的経緯について明らかにしておく必要がある。

歴史研究にはもちろん厳密な資料批判にもとづいた分析が必要になることはいうまでもない。私的に記述された日記は，執筆者の主観や恣意的な操作も含まれている可能性は否定できないが，公的な文書や新聞，書籍等の出版物からは得ることのできない，庶民の本音のようなものも少なからず含まれている。人類学的な歴史像を描くうえで，こうした資料は有効に活用されるべきであるだろう。とりわけ，キリスト教やキリスト教会が現地社会に受容されていった様相が，当時の地域の人々の目にどのようにうつっていたかは重要な要素である。趙氏が日記を通して描写したアメリカ北長老教会所属の教会活動の特徴，内戦中の国民党軍隊と教会活動との関わり，内戦中の庶民の暮らしの様子は，安徽省宿州キリスト教会の歴史研究や中華人民共和国建国前における外国キリスト教教会活動に対する再評価，及びキリスト教の中国本土化の歴史的過程に関する研究に少なからず寄与していくものと考えている。

謝　　　辞

本研究ノートで紹介した日記資料の収集は，平成 20 年度国立民族学博物館の海外収集プロジェクト「中国漢族の標本資料収集」の助成によって可能となった。日記の執筆者である趙昇祥先生のご家族，収集の際に支援をしてくださった宿州学院の謝景彩先生，貴重な資料を提供してくださった宿州学院の S 先生と同夫人，日記の公表について助言をしてくれた同僚の松山利夫先生と小長谷有紀先生，有益なコメントをくださった 3 名の査読者，本稿をおこすにあたり協力してくれた長沼さやか氏と枝光ユミ氏に深い謝意をあらわしたい。

最後に，激戦の中で，勇気と責任を持って，農事部の中の責務を忠実に果たし，家族を守りながら後世のために貴重な記録を残してくれた日記の執筆者の趙昇祥氏に対して，崇敬な意と感謝の気持ちを表すとともに，ご冥福を祈る。

注

1）第二次世界大戦終了後の中華民国は，共通の敵がなくなり，国民党と共産党の間にある国作りの構想の違いが再び対立へと転じ，1946年6月より内戦を再開させた。

2）日記の発表とそれに関する本研究ノートの執筆について筆者が日記の所有者のS先生と日記の執筆者の遺族と相談した。S先生は自分のことについて匿名という条件で承諾した。日記の執筆者，趙昇祥氏の遺族は，故人が生涯にわたって敬虔なキリスト教徒であり，善行を行ったので，実名で出すという条件で日記の出版を承諾した。趙昇祥の娘によると，もとの日記は，字がとても小さく書かれていたが，S先生が40年代の資料がほしいということで，趙昇祥氏が拡大鏡でもとの日記を見ながら，大きく書き写したものである。S先生に見られることを意識して恣意的操作をする可能性があると指摘する人もいる。もとの日記をみて照らし合わせる作業をするために，筆者が趙氏の遺族と連絡を取って，もとの日記を探すことをお願いした。趙氏の遺族は，2005年宿州市政府の都市開発プロジェクトによって，家と近くの住民が立ち退き移住することになったため，引っ越す前に趙氏の遺物を整理し，使えないものを売ったりしたが，日記や手紙などのようなプライバシーの紙もの（およそ一段ボール分）を売るのを懸念して，火で焼いたと言う。趙氏の遺族が筆者の依頼を理解してくれて，多忙の中，もう一度家中を探したが，もとの日記は見つからなかった。もとの日記と照らし合わせることは叶わなかったが，筆者はこのような形でこの日記の存在を公表することは意義のあることだと考える。

3）S先生は次のように趙昇祥のことを紹介している。趙昇祥は正直で温厚な人柄である。まじめに仕事をして，情のある男で，嘘をつかない。農業事業を愛している。言（げん）に訥（とつ）にして，行（こう）に敏（びん）ならんと欲す（言葉少なめで行動を重んじる質素な生活をしている）人である。

4）上記の明代のヨーロッパ宣教師の著作を詳しく紹介したのは西澤治彦の論文「明代の中国における宴席の儀礼――主にヨーロッパの宣教師の著作を通して」（西澤2003）である。

5）当時のベッド数は30。主要な医療関係者はいずれアメリカ人であった。内科はさまざまな難病の治療，外科の場合，腹部の手術が可能であった（安徽省宿県地方志編纂委員会1988: 350）

6）「自治」は政治的自立，外国の教会からの干渉を受けず，中国人自身で教会を運営すること。「自養」は財政的自立，つまり伝道のために外国の教会からの支援を受けず，自らの力で自らを養うこと。「自伝」は，外国人宣教師によらず，中国人自身の力で伝道すること。

7）前国家主席胡耀邦の夫人，李昭（元の名前，李淑秀）も宿州市啓秀小学部の卒業生の一人である。

8）丁震亜は，社会主義建国後も，熱心に大豆の研究をつづけ，70年代，省大豆研究所所長となった。90歳まで生きていた（邵2001: 46）。

9）民国22年（1933年）当時首都である南京で創刊された政府発行の新聞紙である。

10）上海で発行されていた新聞紙である。

11）民国22年（1933年）当時首都である南京で創刊された政府発行の新聞紙である。

12）上海で発行されていた新聞紙である。

13）この時期の宿州は国民党政権支配下にあった。顧祝同は1946年5月国防部陸軍総司令に昇進された。国共内戦のために，30万の軍勢を率いて共産党側の中原解放区へ進撃した。1948年秋には国防部参謀総長となり，南進してくる中国人民解放軍を阻止しようとした。

14）中国人にとって「天」はすべての主宰者である。

15）内戦中に多くの国民党兵隊が農事部に来てハナズオウなどの花を求めていた（1947年3月25日，30日，31日，4月1日，4月3日，4月6日）ことは興味深い。

文　　献

Buck, Lossing
1930 *Chinese Farm Economy*. Chicago: University of Chicago Press.
1937 *Land utilization in China: A Study of 16,786 Farms in 168 Localities, and 38,256 Farm Families in Twenty-two Provinces in China, 1929–1933*. Nanking: University of Nanking.
Buck, Pearl
1931 *The Good Earth*. New York: John Day.
Han Min
2001 *Social Change and Continuity in a Village in Northern Anhui, China: A Response to Revolution and Reform*. Senri Ethnological Studies 58, Osaka: National Museum of Ethnology.

安徽省宿県地方志編纂委員会
1988 『宿県県志』合肥：黄山書社。
安徽省宿県地区地方志編纂委員会
1995 『宿県地区志』北京：中国人民大学出版社。
韓心栄
2007 「宿州有段古城墻」『安徽文学』6: 50–53。
（明）崔維嶽［ほか］纂修
1985 『安徽省宿州志』台北：成文出版社。（東洋文庫據明萬暦 24 年序刊本手鈔本影印）
邵体忠
2001 『古汴留痕』宿州：拂暁報社。
2003 『晩窓集』宿州：拂暁報社。
2008 『賽珍珠研究小札及其它』宿州：安徽宿州学院賽珍珠研究所。
余鍧・徐世用・張体乾編纂
1982 （明代）『嘉靖宿州志（安徽省）』上海：上海古籍書店。
中華続行委弁会調査特委会編
2007 『1901–1920 年中国基督教調査資料』上・下巻，蔡詠春・文庸・段琦・楊周懐訳（原『中華帰主』修訂版）北京：中國社会科学出版社。
黄幸平
2009 「基督教会史上的安徽名人生熙安」（2009 年 9 月 1 日）http://blog.sina.com.cn/s/blog_49e5ad7a0100ehio.html。

岩谷　将
2006 「中国国民党訓政初期の理念と実態──地方自治政策における地方党部を中心として」『アジア経済』47(1): 36–55。
韓　敏
1999 「現代中国におけるキリスト教の受容──安徽省蕭県農村部の事例を通して──」『宗教と社会別冊』pp. 49–55，「宗教と社会」学会。
西澤治彦
2002 「中国におけるパール・バックの足跡──鎮江の旧居と宿州の教会，および南京の旧居を訊ねて」『武蔵大学総合研究所紀要』11: 127–143。
2003 「明代の中国における宴席の儀礼──主にヨーロッパの宣教師の著作を通して」『武蔵大学　人文学会雑誌』35(2): 1–66。
バック，パール
1958 『現代アメリカ文学全集 15　私の歩んだ世界』吉武好孝・新庄哲夫訳，東京：荒地出版社。（*My Several Worlds: A Personal Record*, New York: The John Day 1954）
1992（1953）『大地』（1），新居格・中野好夫訳，東京：新潮文庫。
バック，ロッシング
1935 『支那農家経済研究　上・下』東亜経済調査局訳，東京：東亜経済調査局。
リッチ，マッテーオ・アルヴァーロ・セメード
1982 『中国キリスト教布教史 1』川名公平・矢沢利彦訳，東京：岩波書店。
1983 『中国キリスト教布教史 2』川名公平・矢沢利彦訳，東京：岩波書店。

附録 1

日　　记

1946 年

1 月 8 日 晴	晚上约 7 点左右，忽见城内有火光，到大门外看看，像是失火，许久才熄，位置像城隍庙那一片。
1 月 13 日 晴	有人来报告，有兵去砍启秀〔中学〕东边钉铁丝的木柱子。我去看看，阻止他们，还有兵在福音村南边砍树。赵心广去阻止他们。
2 月 11 日 晴	报载新疆成立土耳其斯坦政府，东三省成立东北自治。
3 月 14 日 阴	上午有来要住，未答应他，也就走了。
	下午 1 点进城找许牧师不在家，又到福音村去找，他正在福音村，又一同回来。拿了一张顾祝同的布告（禁止住兵）回来贴上。福音村也住兵了。
	保甲长来借草，将陈老三放在农事部的草借去 140 斤。
3 月 15 日 阴	今天来许多军队，各处找房子，未来农事部。
3 月 17 日 阴	散礼拜回来带来昨天卖的秆草钱。
	下午来人商议买或借秫秸。丁震亚定价每斤 80 元，他们嫌贵，要借，我不敢答应，叫他明天来与丁震亚商议。
3 月 28 日 半晴	下午来一兵要住农事部，未答应。第二次又来四人（丁震亚已走）也未答应，临走时说明天来。
3 月 31 日 半晴	上午有兵打门许久。我母亲去开门（这时正想翻墙），进来五、六兵。先到我家拿木棍，硬夺下来。他们又上南场搬秫秸、拿木棒。我一人阻止不住，去找他们官长，和他们张排长交涉，答应将木棍归还，秫秸暂借。我未答应，张排长叫保长负责归还。我们同去找保长，未找到保长，经韩良璧说：末后张排长觉得不妥，又答应完全归还。
	这时锡荣〔笔者的妻子〕去告诉丁震亚，丁震亚也来了。我又和丁震亚一同去要，先将木棒拿回来，以后郑班又来通知，叫差人去拿秫秸，在南屋谈会话。郑班长是贵州人，24 岁，家中有一长兄，他于民国 26 年出来。
4 月 5 日 晴	附近住的兵都走了。
4 月 8 日 半阴	有兵在北园锯一棵洋槐，阻止无效。
4 月 17 日 半晴	从昨晚起风，渐渐大。今上午特大，天昏地暗，听说城北下雹子。
4 月 27 日 阴	上午来二兵砍小树。经阻止，只砍一棵小楝树。
5 月 19 日 晴	今天又是南关会，这是才成立的，因是第一次逢会，可能有很多人不知道，卖东西的不多。
7 月 9 日 阴	来一兵看花，又问我要花。忽然下大雨了，到屋内躲雨。雨后仍问我要花，不给他，他自己要动手。以后给他一棵百日草，说明和他交换。
7 月 14 日 半阴	蝗虫。下午 2 点见有许多蝗虫。到大门外看看，很多蝗虫自东北往西南飞，南南方好像有雨，蝗虫又折回向北飞。下了一阵大雨，此地落下许多蝗虫。又有一小部往东飞去，又有一小部往南飞去，又有很多自南方及西南方往北及东北飞去。晚上还往南飞一小部分蝗虫。
7 月 15 日 半晴	有兵来砍树枝，将墙上花瓦弄倒一段，陪礼不少。今天傍晚又有少数蝗虫自东南来往北飞去，此地未落。
7 月 16 日 半阴	上午自西、南来蝗虫往东飞去。
8 月 2 日 晴	早上有兵越墙进来，去阻止。

8 月 8 日 半晴	有进来割草，去阻止。
8 月 13 日 半晴	看今年的水势比民国 20 年之灾稍小一点。
8 月 14 日 半晴	上午撵出在院内割草的兵。
8 月 19 日 晴	这几天，天天有兵来院内割草，院内的草已割完了。
8 月 20 日 晴	有兵牵马来院内吃草。丁震亚和他交涉，吵起来了，我去圆圆才走了。
9 月 2 日 晴	近二日天气甚热犹如伏天。
9 月 7 日 半晴	撵割草的兵。
9 月 10 日 半阴	今天中秋节，晚上乌云遮月，也有很多燃放爆竹的。
10 月 28 日 晴	约 10 点时李恒连在墙外对我说有兵在南边拆墙砖。我赶快跑去阻止，也不叫他们拿砖，兵走了。我将砖都拾到院内了。有一兵临走还関照我，不要告诉他们官长。 午饭后李恒连的儿子又来告诉我有兵拆砖。我又去阻止，谁知阻止不住，拉我去与他们的长官交涉。我和他们一同到火车站南边之仓库见他们的班长。一人姓王，山东人，一人是南方人，交涉许久。山东人好说话。但拆砖的兵，不是他班的。后来也退还了，叫二兵抬着送回来了。 我又将砖头搬到院内，用草盖上。两次都是李恒连对我说的，两次我都向李恒连致谢。
11 月 2 日 晴有点云	有兵砍树枝，我去只要了一部分来。 又撵麦地的羊，并捉来一只羊。
11 月 8 日 阴	到南関乡公所请通知各甲长禁止放羊吃麦苗。 又阻止兵砍树。
11 月 11 日 半阴	有炮兵野操，折些柳枝。
11 月 15 日	医院南地东边的大路，乡公所招夫修筑，想用农事部地内之土。我去告诉李子镐及李牧师。他们去看看，告诉监工的，不要用我们地内之土，只可从河沟往下挖。
11 月 16 日 晴	招待宿县中学唐某来参观。
11 月 20 日 阴	有人偷挖北园土谷堆外面之土。我写一木牌，禁止挖土，挂在树上。又禁止人在坑中和泥、又刨起地中的小路，出了一身汗。 下午有兵想住，告诉他是农场，并指布告给他看，就走了。 以后又来三兵要往房子。指布告给他们看，只到后院看看就走了，在附近有大户人家房子多的都住兵了。 又到北撵军队放的马。
11 月 21 日 半阴	南関乡某人也同意不叫掘北园地之土，并说有再有掘土者，可送至南关乡惩办。
11 月 25 日 半阴	在地中逮了一个偷土的小孩。吓唬他一顿，原来是老夏（李恒连的女婿）的徒弟，又来问我要粪箕，给他了。
12 月 2 日 晴	有兵折柏树枝，我去阻止。
12 月 16 日 阴	看着南関好像失火。
12 月 31 日 晴	有兵来要折柏树枝，在南大门与之交涉，未让进。

1947 年

1 月 2 日 晴	上午李佩五来玩。
1 月 4 日 阴	昨夜下雨，直到今中午始停，雨量 1.45 cm。
1 月 9 日 阴	城门有学生募捐，捐了 300 元。

2 月 1 日 晴	丁震亚不愿在东关呈报户口，要在南関呈报户口。
2 月 5 日 晴	南边有挖战沟的。
2 月 7 日 半阴	招待道德会的陈某。
2 月 8 日 晴	有兵来号房子（要住），布告挂在门外，但不理会，大略看看就要住。告诉他是教会的农场，没有闲屋，不但不听还生气，有要打人的样子，不让说话，到大门写上“548R 本部驻此”。然后又有一人到南屋看看，态度好些，略加交涉即走。遂到南関告诉李牧师，正在西牧师楼上，许牧师也在。李牧师、西牧师要来，许牧师说兵已走了，去亦无用，要了西牧师一张名片。 许牧师又叫我同去拿《公报》内载“国防部电令各地部队占用教会房屋，要让出”。 傍晚又来一兵（丁师母刚走又回来了）各处看看。我也告诉他，这是美国教会之农场，他态度温和，谈的很详细。他姓「江」、「姜」、「蒋」，说话声不大，很慢，最后他说若在别处能找到房子，即不住，若找不到，仍住。 我叫陈知文去告诉李牧师。不多会李牧师同西牧师都来了。我将情形略说：他们走时，我请西牧师写一便条，以便兵来时与其交涉。 点上灯在南屋写的，是英文。大意是：教会房屋，从未住兵，国防部也有命令，况此房产属美国教会，请不要驻兵。
2 月 9 日 晴	上午又有兵来，一位是昨上午来的扣庆祥排长，一位是昨下午来的「江」某。他们是 183 师 548 团（在刚胜利时，先来的 138 师）。我将西牧师的信给他们看，又解释一些。他们又看看房子，他们愿意去见见西牧师。我即陪扣排长至福音堂。因西牧师讲道，李牧师主席，只得请许牧师会见他。许牧师以国防部的通告及长官布告等，要求他们服从命令，保持国家威信，免使外国人轻视，最好不驻。扣排长思索之后，为避免麻烦也答应不住了。我提到南関学校，他即去看。 回来我又上地撵马。 傍晚军队来了，听见家后有人嘈马叫。
2 月 10 日 阴	先有兵来找军队，告诉他未住此处。 又有中午来的兵想住房子，和他交涉。虽然不住，但是说些歧视、讥笑的话。 许牧师送来一张薛岳的布告，我贴在牌子上。
2 月 11 日 半晴	中午有一兵来看房子，他说他信奉天主教，只看看南屋又到我门口即走。
2 月 13 日 阴	路上良恭说郝鹏举反正后，又被八路军包围，捉去了。 张秉谦之弟，被自己的手枪打伤腿，现住医院。
2 月 16 日	阻止兵锯树。
2 月 18 日 晴	三里湾看青的王化贤，来要看青粮。我去问卢和修，说他已不看青了。回来告诉他外国人不叫给，他很生气说老丁还有几十亩地。
2 月 26 日 晴	有兵来要借农事部一间屋住。我告诉他我不作主。他要明天再来。次日果然来了，与丁震亚会面谈甚久。丁震亚答应他白天来玩可以。
3 月 10 日 晴	有兵来踩门，我阻止不住，锡荣开门。那兵好像是才从线退下来的。他到小发井旁树上折下一枝，往锡荣身上打两下。我推他一下，到南屋又用力打桌子一下。后我与丁师母都责他。有一官在院内看了一、二眼就走了，那兵也走了，未住。我想是那兵打了人，恐引起交涉，不敢住下。 又到北园撵马。 我上车站送生老太太到西安去回来才知有四兵来拿去十个杆草。
3 月 13 日 半晴	有东关炮兵营政治部翁某来硬刨去一株柏树。

3 月 19 日 阴	有一兵来找桑树皮，治脚痛。
3 月 21 日 晴	张星坦之弟及竟成公司经理李某来买洋槐及青桐各 1 株，价一万元。
4 月 12 日 晴	县推广所主任杨紫宇来联络。
4 月 20 日 晴	5 点多，有县政府及各机关、法团、会同（四位）来农事部检查囤积物资。我将账本给他们看，也告诉他们粮食不但（不）余，而且不够。他们要看，我答我没有钥匙。他们在院内看看，看见仓房又问，我说是储种室。 我正要进城对丁震亚说知此事，冯克钊、王百镕来了，问问推广高粱情形。
4 月 27 日 晴	有军人用猎枪来打鸟。
5 月 8 日 半晴	上午有推广所指导员李世美来参观，并请教办合作农场。
6 月 8 日 半晴	有三个兵来找花，刨了三棵秫稭花去。 散礼拜去县党部看看美术展览，有字画等。
6 月 29 日 晴	下午招待县政府建设科蒋某。他对气象很有兴趣，他自己也记气象，特别注意两量器。
7 月 9 日 晴	助丁震亚填写杨紫宇的调查表。
7 月 16 日 晴	清早有兵来要花，赶快起来去阻止。要东洋菊，未给他，吵了一顿。只给他三、四棵百日草。
8 月 2 日 半阴	现在要在北园筑防水堤。我去看看，不叫用农事部地内的土。陈知文来说，王化谦强使工人抬农事部地内的土。我又去交涉，只得王化谦负完全责任。我叫陈知文对丁震亚说了，丁震亚说王化谦以公事为词，已经用了，也无办法。
8 月 15 日 晴	嵇牧师照的像，有一张是照的怪胎，在医院生产的一个小孩有二颈、四手、四足，可惜不很清楚。
8 月 24 日 晴	刘奉何回来说，有兵到地中割高粱，去干涉他们。刘奉何被他们打了，叫我和他去找。他们住在启秀北边，乡公所南边。我去问打刘奉何的人，他们不承认。我要和他们的上峯交涉，末后出来一位官长（是特务长）。我将情形告诉他，请他制止，他也说些好话。
8 月 25 日 半晴	有农推会的刘某来接洽买 141-9 麦。
9 月 18 日 晴	水势：伏水已落，自九月五日河水又涨，至十二日达最高峯，如同夏天水势一样大。东吊桥水触及桥梁之横木。坐在南门外桥角之石上即可洗衣。南河之水由路旁水沟流至福音里门口，河堤未决，故田地内无水。自十六日，水又渐渐下退，十八日退落一尺。
9 月 22 日 晴	县教育局长冯毓金（品三）是冯毓淑之弟。他包卖学校教科书，售价较书店约高一倍，被人登报。在救国日报、中央日报上海版及南京中央日报、21 日社会服务版都有，共五次之多，并有用红笔圈圈，骂骂贴在街上。
9 月 24 日 半晴	上午见街上贴的教育局长冯毓金声明，谓奉省教育厅令，大致写丁震亚所说的相同。
9 月 27 日 半阴	中午刚搁下饭碗，有兵来要铁剑。给他们两棵小的，不要。他们自己动手挖。不叫挖，阻止不住。也未发脾气，挖掉就拿走了。也拉不住，也不留字。问他姓什幺？说姓天。
9 月 28 日 半晴	下午有县政府秘书任泽来参观。他拿着圣经在福音村聚会的，是南坪集人，有中央训练团章，谈些育种事。
9 月 30 日	城门未开，只小东门开了，只准出，不准进。 今早晨 4 点有飞机来投两棵照明弹，一在东北一在东南。 张公才听说八路军到了两半张家。不多会又听见有密集的机枪声，心也不安了，写字也不稳了。

陈知文说从昨天夜间至现今未过火车，有许多人自东关往南逃，陈老三也走了。

下午我去见李牧师，他也无办法，只说将账等收集起来，以便保存、防火。别的东西无法搬移，由它去吧！也不要乱跑。人走了，有趁火打劫的，这次来的是赵滙川及李凤楼的人，共二师，有一万多人。口子前天失守了，西三铺、四铺、夹沟、符离均失。柯小姐于 27 日下午进城要兵守医院，仓库的面粉往城里运。又到李师母家坐坐。她给二个月饼。从李祠堂院可以可以出。回来整理公事房的东西，收起账本等。刚吃完晚饭，约 6 点，南関又有枪声，很密。

陈知文回来说八路军已到南関，我叫工人把打的豆子收起来。我又把我自己要紧东西收在提篮内，以便移动。叫锡荣把需要的衣服包起来，以便随时拿出，以便防火。

又叫工人在张公才西边雨水井内放进些木板铺上（内井内有水）人可以进去防枪炮。

又将大车上的试验豆子，从车屋内拉到院子里，防火。

我安排两个工人看门，不睡，其余的人都先去睡。

我叫我母亲带两个大孩子锡荣带小孩先睡，我不睡。

时已八点，陈知文妻在我坐许久。9 点多我叫她去睡觉．我才记气象。陈知文又来谈谈话，我到 12 点半才睡。

今白天飞机不断来。下午曾在北方投炸弹数枚，并用机枪扫射。飞机是 P51 型的。晚上来四次。第三次来曾投照明弹，也有好像是地上射上去的。一线红光到空中炸裂是红光，不亮。时间不久，有一个光大，时间也长。飞机转了三圈尚未落下。白天是往北打枪，晚上是往南打枪，前半夜打了三阵枪，也有大炮，我睡了以后枪声不多，有步枪也有机枪，也不间断。因有白云，月光不好。

10 月 1 日 阴　早饭后南関河西有人仍往南去。医院东墙有许多洞，医院南地挖有战沟。不见兵，也不见人。住户门口尚有人。天未明时来一次飞机，上午来二次飞机，西关好似失了火，冒烟甚久，早上枪声很多，以后渐疏，又改在北方有枪声。

下午来四次飞机，三次三架第四次四架，好像在南方投弹，是 P51 型的飞机，有好几颗炮弹落在南边乱葬岗，南関西边也落一颗。每次飞机来前后，就放一阵枪。5 点半正放枪，飞机正在旋转，投二枚炸弹，很近，屋土下落。连忙出去到张公才处看看，又到大门看看。南関好像有两处起火，一处大约在启秀北边，一处大约在南関十字街。飞机扫射数次，大炮更是不断地轰。约 5–10 分钟就看见自南関南门、南関东门出来许多百姓逃走。机枪、大炮打着，就在不远之处爆炸，真替他们担心。城上守军也打炮，约有一小时之久，大炮小枪不断。一种特别尖锐响声，大势越大。有三处大火，有一处像在西关。晚上来一架飞机。八、九点钟时，又来一架，放一颗照明弹。今夜枪声甚少，约一小时打几枪。我睡后又来一次飞机，投二枚炸弹，好像很近。

10 月 2 日 晴　7 点在大门看看，逃乱的接连回来了。有五个兵来问，有八路吗？都答没有，又上南関去了。

上午 10 点我到南関探视同仁旧友，并作战地巡视。医院东丁万钧之松树林往南有一炮弹痕迹；南边乱葬岗有挖的战沟，座向北，像系八路军所作。医院后院墙皆挖有战沟，墙上开些枪眼。医院东南角炮楼之西，墙上拆开

一门。院内柴木零乱，南寨门外有许多战抗。医院南墙及街上贴满了标语，有「坚持政协路线反对蒋介石独裁。坚持民主自立，反对美国侵略。蒋军官兵们把枪口调转过来。一切爱国知识份子，快站到人民方面来。蒋介石祸国殃民，解放军保国护民。开仓救济。解放军是人民的军队」。下署「解放军宣」。贴的布告，是新四军的，军长陈毅。有六项：1. 不杀俘虏。2. 欢迎蒋军官兵投城。3. 信仰自由。4. 保护交通邮政学校工厂。5. 不使生产受损失。……」。我见乡兵正在揭布告。医院修理内部，停诊一日，但有许多受炮火伤的就诊，约七八人，还陆续而来。天福里仓库对门有一汽车被焚毁。

我从邵某南邻进入启秀，看看炮弹痕迹。东球场靠近墙落四、五枚炮弹，墙上有弹痕。大楼脊被打去一段。北面靠东顶盖打一洞。北面西边有一窗中弹，旗杆被穿通。大楼西有一兵（新四军）与一炮弹相遇，被炸死。玻璃破三分之二。厨房院内落一弹，卧室后进院落一弹，掉一砖。启秀往北到张化峯南边全烧了。再往北王文亮的药房门面往北都烧了。十字街口以西直到桥也都烧了。十字街口往东路北也烧了，烧到南関小学对过处。洗澡堂往南路东完好。路西只王金生家及附近二三家完好。

北园地北边死一讨饭的。

李荣光说县长太太和两个孩子、弟妇都住在启秀内（听说昨天下午也跑到三里湾去了）。

刘司药谈谈这次战事情况：城内有伞兵一大队，交警一队，及 58 师留守一部分，约有三、四千人。只 58 师山炮营留有大炮六门，其他无大炮。南関之火为伞兵之火箭所射（另有伞兵二大队今在符离集）。三部合作，最初秩序不好。联防令下之后分定责任，城防司令为伞兵队长，指挥为交警队长。新四军是陈毅的，约七、八万人。先攻永城未攻下，又攻口子、夹沟、符离。

城内军粮无计划无预备。昨天才将仓库面粉搬运了一天。现在城内仍做工事，城内也落了炮弹，伤了人。刘司药说，非军人不能出来。伤兵医院在中正小学。他们住在文化服务部。刘司药问我南関的情形和标语。我也说，南関死约十人，伤者陆续送往医院。

到夜间约 1 点忽然听到有机枪、大炮声。枪弹将青桐树叶打落四、五片，枪弹在空中如火星飞过，不很高。又放射两颗照明弹。我们都起来了。约三刻钟之久，就不打了，四点又睡了。

10 月 3 日　晴　　早上来二次飞机。上午有城内兵在东边要白菜，与菜园的人吵。国军只守城，不守关，不准关外人入城。但是要面、要柴、要菜都是向关外人要，关外人不要保护。单昌为城内军队，在观音堂挨家挨户收面。

单昌听说有探子报告说观音堂住了好几万八路军，在房上打枪。城内守军预备洋油火把，要将城附近十五里路以内之村落完全烧尽，以免隐藏八路军。

郭玉明说昨夜是县队的兵，驻在南関。也是害怕，故意往城内打一阵枪。假说八路军人多，抵挡不住，退回城内去了。走时抢东西，外院卜昭聚的手电、棉袍、小孩的衣服多被抢去。八路军是 9 月 30 号晚上 9 点进南関，先到医院立即派兵守药库，并问有中央军官长之父母住院否。

柯小姐的手表、钢笔被八路军要去了（我未记柯小姐是甚么时候来的），孟大夫的手表、毛线衣也被要去了。先敲医院后门，敲不开，才从南面拆墙进来。

有人听见新四军二人对话。甲说：「走罢」，乙说：「不等攻城吗？」甲说：「攻城，进城用手掌打人家。」
又有人听见说，新四军某人告诉同伴说：「带了八十颗大炮弹，已用了三、四十颗了」。
新四军来是从县立农场南边过河，在县立农场候至天黑才进南关，南关守军看见约有一连人过了河，南关守军打了一阵枪之后就退进城去了。新四军也有美式枪，新四军于 10 月 1 日晚上天黑时，往城内打了一阵枪之后就走了。
郭玉明看见三门大炮，又说司令部在李牧师楼上，又问李牧师有美国人吗？李牧师说，他们在日本人来时就走了。又问这医院现在属谁？李牧师说，由私人接收。
新四军拿医院的药时说是借的，李牧师叫他们在借据上签字盖章。
救济面粉是用大车、洋车、小车运走的，也有人扛，也有人担，吃剩的走时也都带走了。
刘司药说，有被俘虏的六、七位中央军，新四军走时他们未随同撤退，二日早晨问西城门守军又投城，被守军用绳繫上城了。

10 月 4 日　阴　丁震亚出城是借天主堂办的「宿县军民联合救济会」的红十字袖章，不然出城仍困难。
丁震亚说，又来伞兵一、二千人。宿中门口落一炮弹炸死换班之四兵及一民妇。另有五人受伤，（靠近专署）所以专员搬到福音堂礼拜堂讲台下之地下室办公。许牧师搬出来了，福音堂住许多兵（是司令部）。
城内面、柴、菜奇缺，葱每斤 1 千多元，面每斤 5 千元，整日不许百姓出大门。办公事的可来往，晚上家家门口点灯，是为了使城内与城外有分别，每城门有 40 挺机枪，火药也足。交警及 58 师留守无守志，想跑。伞兵戟权高过其他，大街岗位甚密。电达南京，回电叫坚持，汽车兵也不愿作战。又说城内兵士要犒赏，县长发了七千万元流通券，一个月后兑现。
传说启秀的学生、先生都被带走了，某农场炸平了。
又说因县长之妻儿，住在启秀，县长要挑选 100 名敢死队，出城救护其妻儿，专员觉得不妥当，不叫开城门。县长不叫炮手往启秀和医院打炮。
卢庄来人说，存在彼处之秫稭被兵搬去一、二十个。
不多会卢庄又来人说，新来的兵又搬去许多秫稭。
午饭后忽然来一些兵要住房子，和一位官长交涉，告诉他，我们的隶属。未住，只要求暂避雨，未住。有几个兵说些气话，如：鸡犬不留，火烧……等等，拿去陈知文一条席，一盒火柴。他们是从山东追陈毅部队的，他们是七十五师与八十五师并作战的。

10 月 5 日　半阴　观音堂的桥拆了。有泥过去很费力，以后又填些土好走多了。
大东门之桥，用棒板搭上，可通行。
小东门只要身份证。福音堂住满了兵，门口要身份证。
许牧师说在启德卧室聚会，许牧师讲徒 17：22–31，孙光斗长老祷告，说兵住在学殿，有神的旨意。

10 月 6 日　晴　先有一兵来，各处看看即走。一会又带一官长来要住南东屋。对他说，内有肥田粉东西太多也就走了。

10 月 7 日　晴　午饭未吃完，又来些兵要花，也是装甲汽车队的。要铁剑树，未给他们，送他们几株草花，仍要铁剑树。阻止不住，拔了两棵小的，气的也不饿了。

10 月 8 日　晴　下午有两个兵来躲藏，不愿当兵了，想回家，家在蒙城。先跑到我院，我

	叫他们到后院，到丁震亚的炮楼上。晚饭后我去看看他们，又送些面条给他们吃。有一人无便衣，我又找一套便衣给他，叫他们到场上麦穰堆内睡。一位矮的姓王太和县人，一位高些的姓高，蒙城人。
10 月 9 日	早上该二兵买先种家的面自己做饭吃的。丁震亚和我同去叫他们吃过饭就走吧。
10 月 10 日 晴	下午有兵来搬陈老三存在这里的穀草八、九个，又搬农事部的秫稭。交涉许久放下了未搬。又有来借草的，又有来借铁锹的，真麻烦。 上午听见有大炮声，很多。下午又听说八路军又到西三铺了，又都惊慌。
10 月 11 日 晴	有兵要买柴，丁震亚将碎秫稭卖点给他。
10 月 12 日 晴	有兵来买柴，卖给他碎秫稭，每斤 300 元，嫌贵不要了。
10 月 18 日	有兵要来杆草（是别人存放在此的）交涉许久，最后叫他留下地址姓名。地址留下了，不肯写姓名，草也不要了都走了。
11 月 6 日 晴	有兵来二次看房子。交涉，未住。
11 月 7 日 晴	县立农场将农具一洋车存放农事部，还有消除机（除绵虫病变）三架。
11 月 8 日 半阴	昨夜共军在凌家桥炸铁路，今日不通车，城门检查甚严。
11 月 10 日 晴	照应杨紫宇将东西寄存于农事部。
11 月 13 日 晴	有兵来看看就走了。臂带红布，闻系吴化文的部队，多是北方人，农事部周围住的满满的。
11 月 21 日 晴	城内派征军粮，也查借军粮，其数目共十万斤。其中二万斤归二十大户摊派，所以薛太太来分散麦子。
11 月 22 日 晴	今天南北火车都通了，南京报纸也来了。
11 月 25 日 晴	杨紫宇来看他的东西。
11 月 27 日 半晴	杨紫宇来看他的东西。
12 月 2 日 晴	关于拆军队修的碉堡，嵇牧师说等几天。得到蒋主席授手谕不准兵住教会房屋之照片再拆最好。
12 月 3 日 晴	又有兵来看房子了，张公才已去找嵇牧师。不多会，兵进来了，我正与排长交涉，嵇牧师与连长又来了。嵇牧师说有命令不住教会的房子，这是美国教会产业，我是代表，不能作主让你们住，要同长官谈谈。连长说，我们再去找，若找到了就不住。嵇牧师走了，有二班兵在南场屋休息，兵都走了。 有兵两个班来做工事，用土在墙根一台可站一人，能看见墙外，毁坏一点普通麦及小皂荚树。 东南角之墙又挖通了，我叫陈知文去找嵇牧师，他自城内来（是拜三祷告会散会后）。嵇牧师问为甚在这里做工事，并说这是美国的，在作战时美国守中立，或者要和长官谈谈。兵不叫关大门，嵇牧师走了，兵也走了。 嵇牧师叫工人轮流看大门。兵又来通知，不要开大门了，不走大门，你们可以关、锁。
12 月 4 日 阴	嵇牧师来看看，是否有兵来做工事。告诉他，没有兵来，也叫关大门。又带嵇牧师到南边看看昨天做的工事。 嵇牧师说昨天国防部派人来观察，25 师做的工事。 赵良恭来说乡间住的兵，威风很大。
12 月 5 日 晴	有兵在北园挖土抬走了，我去交涉，无效，反听他们说些不讲理的话。末了，又抬北边坑边的土。
12 月 7 日 阴	南边碉堡内有邻家的一扇门，被人拿去了。
12 月 8 日 阴	南边碉堡的木棒，昨夜又被人偷去了。

晚上又和工人将碉堡偷剩下的八根棒拆下来，拿回来了，用木门将墙洞堵上。
我们拆碉堡的木棒是偷着拆的，张公才的母亲偏大声说 :「你们在南边吗？我见有手电亮，你们做甚幺？」我很生气。

12 月 10 日 晴	杨紫宇来拿他的东西，叫补一份「领小型农具的表册」。
12 月 13 日 阴	陈知文告诉我有兵来拆本院西南角之碉堡，交涉不成，拿去大小木棒 11 根，水机架板一块，樽一根，南农场之窗二扇，农事部的破梯头一段，老百姓的门四扇，碎板一些，砖未用。我到南関看看是在楼院西北角做工事。 见李牧师谈谈，他不主张去交涉。 谈到北园的地，李牧师叫我去见李副团长及谭某，住福音村一号。 北园的地当操场，阅兵台本在北边又移到南边，下午又移到西边。
12 月 19 日 晴	有兵来打招呼，不要到南墙去，因为打靶。 先种的父亲（赵成英）告诉我南墙被枪打了两个洞，我去用甓堵上。
12 月 20 日 晴	22 点时有些枪声或远或稍近。
12 月 23 日 晴	有兵砍北园的皂荚树，我去干涉，已砍数棵，叫工友拉回来了。 有兵挖北园麦地，干涉无效。对丁说，丁也不急，丁震亚结完账进城时走南関告诉嵇牧师。
12 月 27 日 晴	因兵都走了，我和工人拆西北角之碉堡，陈知文犁北园之地。
12 月 29 日 晴	有兵来砍树，告诉他是农场的。他很客气砍了一株，符号是生龙，名宋金。

1948 年

1 月 5 日	听说中央军到临焕了。
1 月 11 日 半晴	刘登科来说，板桥集共军分地，斗争甚烈，死了许多人。 1 点半有兵来看房子，来五、六人，都是官长，有一位少校，看了一遍，要住一连人。我告诉他们，这是教会设立的农场，要住，须与负责人交涉。他们说尽可能不住，再到别处看看。
1 月 13 日 半阴	兵做碉堡，锯了丁万钧老林的松树三棵。我们拆碉堡，这三根棒放在院内，李克宽要去了。
1 月 18 日 晴	我到北园看看，有兵正在平地，要做操场，交涉无效，都往上峯身上推。我告诉李牧师，无反应，嵇牧师在英文班教课。 李子镐叫我在医院之交通沟补种大麦。
1 月 19 日 晴	上午我派工后又去找嵇牧师。嵇牧师和李牧师去见团长（名邢宗汉，团部在天福里），很和蔼，以电话通知二营到别处另找地，因该地作试验用。 又略谈本地情况，情报科长说，周围没有八路军。
1 月 20 日 晴	我到北园看看怎样犁地，正遇邢团长。他说暂不要犁地，要求再用十余日，部队即调动。
1 月 21 日 阴	张公才对我说，铁锨被当兵的拿去了。我又去找，直找到观音堂小学。他们不给，答应傍晚用完了再给。见了拿锨的兵，他说是炮排头班杨班长用的。 又告诉嵇牧师北园的地邢团长要再用十余日，部队就调动了，暂时不要吧，嵇牧师也同意。 又提新工人要求家眷来做饭，嵇牧师因为新工人，情况不太清楚，等些时候再说。 邮局移至中国银行对过青年馆办公。

傍晚我又去要铁掀，兵尚未回来，我回来在路上遇见兵回来了，也看见铁锨了，一要就给了，还说对不起。

1月31日 半晴　有兵来砍树条了，我去交涉，只砍三根就走了。

2月4日 半阴　有大车往北园地内拉土。闻系在地内筑台子，为明天农民节开会，是南関乡公所指使。我到南関乡公所，乡长又推是县农会之命令。我又到县农会，因不认识人，有二人说，不是农会的人。又遇张秉谦，请他说说，又说是大会通过的议案，个人不能更改。又找李牧师，他也无法可想，我提写一公函去拒绝，李牧师即以教会的名义写公函。内容大略是教会之农场，请另选地点。我又送去，无人收，好话说了一大堆，才给写了一个简单收条。回来时，在南门大街遇李牧师嘱我最好不在地内筑台（这事我也知道，何用你说）。

到家已3点了，又饥又累，吃点，有点精神。又到乡公所，未找着负责人。回来地内已开始工作了，又去阻止，无效。张秉谦也到了，以公以私交涉无效。李牧师也来了，答应给他们北园西北角一块小面积地，也未说妥。晚上胡思知己想，到1点入睡。

2月5日 晴　早上邵坦斋之弟又来找我为用北园之地事，我答应南段地很湿，一经践踏将影响试验，西北角一小块可用。

军队又去体操，更难交涉了。我将地形画绘李牧师，李牧师也很生气。李牧师要进城交涉，起先要我同去，以后有不要我同去之意。遇见邵坦斋之弟谈论此事后，又要我同去。到农会没有人，又到县政府，先去见王秘书。江科长也到了，李牧师与江科长交涉一番，又同到北园看看，农会理事长雷慕唐等，正在指挥移动台子，也是因地太湿，不能用，无须交涉了。

2月15日 阴　我回来听说有兵来要松枝，借秫稭。下午兵又来两次借秫稭。薛汉臣推辞先生不在家，我不敢负责，兵也未强要。

2月16日　下午有兵来要小树枝，应付走了。

我5点回来又遇兵来要树枝，还有二兵拿着称，拿着借条来借秫稭，我以不当家推辞走了。

2月17日 半阴　看看北园的树，皂荚树被锯去下少。还有一棵洋槐也锯去了。中午去问是谁锯的树，伙夫都不承认。找官长又都不在家。下午又去找，仍未找着。因听说军队明天要开走了，无须再交涉了。

有一兵来，不是找我，是找张甫之的（县农场主任），叫他到县政府去问。

2月18日 阴　有一兵来躲藏，想偷跑回家。

2月19日 阴　街上贴着“南关去年秋受战灾之难民共同鸣谢冯君校长”之传单，还有“告各界父老诸姑姐妹书”，是一篇诉苦骂官催粮，请求的话，红绿纸，油印的。

2月21日 晴　许多人都说时局很紧张。

2月22日 晴　又去干涉北园刨树木子的。

3月2日 晴　又有兵来要砖或土甓做碉堡，要搬我院的土甓，交涉了二十多分钟。我要同他去见嵇牧师，他不肯。我要去找嵇牧师，他又不肯等待。又叫我去同他见官长，走不几步，又来一兵不叫去见，硬搬。以后又要与我同去见嵇牧师，那兵又不叫去。曹先生去找嵇牧师，我随后也去了。有一位官长跟嵇牧师学英文的，也和嵇牧师同来。嵇牧师不叫他们搬。那位官长姓于（佘）。和他们详加解释，措词婉转，奉承，人情，国际影响，说了许多，说的他们不好意思再搬了，都走了。夫子只抬一趟约有二、三十块。我气的也不饿了。

3月6日 晴　买了三车砖，我正照应下砖。有一兵来要砖，和他说说就走了。到大门口

才知已搬去许多。我不准他拿，我往下搬。他叫夫子快推车走，车上还有，夫子又搬几块，共拿去十几块。

3 月 10 日 阴　又有兵来要花要树，要刨园花的二棵小松树。未答应给他，他们还好说话。

3 月 14 日 阴　又来兵要住房子，讲讲就走了。又来一次讲讲又不住了。

又来兵要麦穰，不叫拿，硬拿，拿去 20 多斤。

又来兵要杆草，拿去 60 多斤。

又来十几个兵拿丁先生的豆草，每人拿 5–10 斤。

又来二兵，一兵拿麦穰约十斤，一兵拿豆草一抱。

又来十几兵拿丁先生的豆草。嵇牧师来了，有五、六人抱着走了，其余的未拿也走了。

有一兵拿陈老三的秫稭十个，只给二万元。

又有一兵来买三个秫稭，给二万元。

下午又有兵来买柴。给他 55 斤树枝，作价 5 万元。嫌贵，不要，生气走了。后又来一人，仍旧买去了。

下午又有兵来拆墙砖。禁止不住，跟去看看住在甚幺地方。找他们官长，也未见。搬去六、七十块。第二天我到一连三排见排长，交涉并给他嵇牧师的名片，不愿归还。我说破坏建筑。他生气了，将名片也扔了，并撵我走。他马上又说好话，我回来告诉嵇牧师、李牧师，他们要去见团长。

还有兵来拆墙，交涉无效。叫陈知文去找嵇牧师，我去会见黄营长。黄营长叫传令兵来传令，传令兵不出力，只是敷衍。当时还有三兵仍在拆砖，传令兵去说：生效了，不拆了。营长自葛园移住陈金声家，路过时看见传令兵，问他是哪一部份的，传令兵说不知道，营长骂拆砖的两句。

嵇牧师去见团副，也派人来传令。由卜昭聚带领去见了营长，回来说，以后不拆墙了，拆的砖也要送还，并代修理，如有问题，可清赵先生来商酌。

又有兵来拆墙，交涉还有效。

营部又写借条，借四把椅子。我叫陈知文去问嵇牧师，李牧师说借给他们两把即可，并告诉他们三二日内还要用，他们未等知文回来，
硬叫公才帮他搬走了。

我见听有人打门就发急。

3 月 15 日 半阴　又有兵来拆墙砖，交涉无效。我去找营长，他们未拆就走了。其实，我并未真去找营长。

又有兵在西北角拆墙砖，东边也不断的拆，次数无法回忆了。

有兵一队来要松树枝，交涉无效。从南大门进来二人，有一人和我商议，讲话很好，他说少砍一点。这人名洪子明，我记他名字时，别的兵心惊，定要看，又不识字。

又有兵来要草，洪子明去阻止，叫他们到军民合作战去写条子，他们才走了。

南边又有兵拆墙砖，洪子明同我去阻止了。

又有兵来要四个树枝。

又有兵来拆墙砖，我叫公才跟他去看放在何处，我就到南关找李牧师，一同去见团长。团长打两次电话，一是不叫再拆，一是叫将砖送还，问团长要手令，他不肯给。

回来听说又来拆一次，看看墙去了一大段，叫工人用皂荚树挡起来。

3 月 16 日 半阴　早上尚未起床就有兵在西北角拆墙砖，陈知文去说说，兵未敢承认就走了，约拆去五、六块砖。

正吃早饭，又有兵来在东边拆墙砖，去干涉未生效，又去见营长。营长答

	应归还，并给修好，又叫吴副官来查看，并叫我带他去找砖。东边几个粮行差不多都有。有一连长不承认，副官对还砖态度忽然变了，不积极。我和他商量，用别的代替品，把砖换下来，他不积极。
	从前从农事部西南角移到楼院西北角的碉堡没有了。我问李体康，是兵拆的，但不知何时拆的。
	临黑还有兵来拆西墙的砖。我们去，他们未敢拿就走了，共有三个兵。
3 月 17 日 阴	有二兵来拿去张公才屋内的杆草及麦穰一抱，非常野，另一兵温柔。
	我又去找营长，由陈书酬指导员接见。问问，又去看拆的墙。他想暂借，以后归还。他要同我去见李牧师，在井东边站在路上说话，李牧师坚持归还，也说许多刺激的话，如军队不讲道理，外人轻视，不要逆人民之意，要与百姓合作。末后叫我带他去看砖，我不愿去，因去看也没用。李牧师叫我去，我同他去了，仍是昨天看砖的地方。有很多他不承认，到第一次拆砖的兵室，不但不承认，还发牢骚。排长说，等团长观察内务以后归还，指导员也是这样说。
	有兵来找木棍作枪架，送两根给他应付走了。也有不准砍树就走了的。
	吴副官来借 5 个杆草。
3 月 19 日 阴	未吃完早饭，有兵来借柴，用好话商议，借给他 75 斤湿树枝。
3 月 20 日 阴	李恒廉妻告诉我兵已走了，快去找砖，知文公才已去，我六点半也去，在各粮行找大约数目是 50 多块。只有二处处说还有他们的砖，所以又拣了一遍。只将我们的砖拿来，叫薛汉臣看守，我们回来吃饭，时为 8 点 1 刻。
	听说王作岳被兵「拉夫」去了，快吃点饭（其弟与其母都来找他），叫锡荣带信维去诊咳嗽，哑嗓，又分派工人用骡车拉砖。我就到车站找王作岳，在车站遇王运江。他曾见作岳为兵送行李。我向站台内看看都是兵，有官太太及卖茶的，没有老百姓。回来我看守砖头，工人拉砖。王作岳回来了，心中一块石头没有了。叫王作岳看守砖，我回来看修筑墙头的。
	又有东关第一中心学校徐先生来找砖，说他们学校的砖，也被兵搬来了，约二百块，现在一点没有了。我答应我们少了约六百块，尚未找够，我坚持我们修好墙多者不要。他则以不能一方面圆满，他有叫我们给他一部分之意。我不肯，又同去看砖。车上装了一车，他不叫拉走，有要势力的样子。（在刚会面时他就自我介绍，在某部工作，又拿出公事来是联勤……）我未介意，我说我们回去谈谈大事也拉砖回来了，在公事房谈许久，又同去看拆的墙及拉的砖。看样子，砖是有多出来的，最后他们以候我的通知为词就走了。我是聚精会神的和他交涉。
	1 点半吃过午饭又雇工人去拉砖，在陈景望家及美成粮行两处，又找回 130 多块。
	营长借的椅子在陈金声家只找到 3 把，少了一把。陈金声又到东边去找也未找着。我又与陈知文到诚善堂及各粮行，也未找着。
	又将吴副官借的杆草找回来了。
3 月 25 日 半阴	有荣任大队王排长来要花木，给他几棵紫荆。
3 月 30 日 晴	有兵来（我不在家）拔了些花木去。
3 月 31 日 阴	又是我不在家（下午）有兵来拔几棵紫荆去，还有一株青桐。
4 月 1 日 晴	来一兵要了一个秫稭去。
	才来了许多兵，都坐在空地休息。
	有兵来要花，告诉他没有，看看就走了。
4 月 2 日 晴	将多余的砖退给东关第一中心学校（即观音堂小学），徐先生带学生来搬砖。

4 月 3 日 晴	有兵来要花，很客气，送给他们几棵草花。
4 月 6 日 晴	下午有兵要花，给他一株紫荆。
4 月 16 日	有一兵来借锯，留下符号借给他。中午送还了，符号也还他。 昨夜南関炮楼上的兵的枪，被人抢去八枝。
4 月 17 日 晴	又来兵了，只到院内看看，未住。 晚 8 点公才说有兵打门，我去看看。已到薛汉臣住的屋后了，商议要买或借秫稭，送一点碎草给他们。 一会薛汉臣又来说，有人在墙上偷秫稭，并将花瓦弄倒了一段。偷的是陈家的秫稭，花瓦是向外倒的，将砖瓦搬进来。
4 月 19 日 晴	有许多兵在北园地内集合，我去交涉，答应须与团长交涉。我又去找嵇牧师，走在路上时，嵇牧师说：「我们可以関门，来了兵就很麻烦。」我也说，「就是麻烦得很。」 团部在福音村五号童师母家。团长说只用 2 小时。经要求后改用半小时，下次另找地方。 与嵇牧师辞出后，见军队都往西移，出了北园地。 下午军队又到北园地内去了，我也不再交涉了。 傍晚来一兵，商议买或借柴草，缠了许久。我将我的柴卖给他 15 斤，每个作 2 千元。
4 月 21 日 晴	中国行宪第一任大总统、蒋中正以 2430 票当选。 上午有兵来借秫稭，费了好些口舌与心机才未借。
4 月 24 日	有三军人来接洽参观农事部，是装甲营一连，约六七十人，条件是不损种植物。不多会就来了，只看看气象。
5 月 20 日 晴	今日大总统就职。
5 月 31 日 阴	现时局紧张，军队乱调，凌家桥昨夜被炸，闻系陈毅的二个纵队。 有二官长来看房子，要在院内做工事，住一排人。去找李鸿勋，李鸿勋无意拒绝，见了二位官长，满口答应并尽量予以便利，让出薛汉臣的屋给他们住，我照应打扫李鸿勋也走了。 住的兵是装甲营一连三排，排长姓曹，排副李培基讲话很客气。用大车当机枪座，机枪架在墙上。 丁震亚要求准他夜间割麦。

附録 2

日記の日本語訳

1946 年

1 月 8 日 晴れ　夜 7 時ごろ，突然，城内[1] に火の光が見えて，大門の外まで行き見てみると，火事のようだ。長い時間かかってようやく消えた。火事の場所は城隍廟[2] のあたりらしかった。

1 月 13 日 晴れ　兵隊が啓秀[3]〔女子校〕[4] の東側にある針金をめぐらせた木の柱を切っている，と人が告げに来た。私は行って彼らを止めた。兵隊はまた福音村[5] の南側で木を切り倒していた。趙心広がそれを止めに行った。

2 月 11 日 晴れ　新疆にトルキスタン政府[6] が成立し，東三省に東北自治[7] が成立したことが新聞によって報じられた。

3 月 14 日 曇り　午前中に泊まりたいという人が来たが，回答しなかったので，その人は帰ってしまった。

午後 1 時，許牧師に会うために城内に行ったが，家にいなかったので，福音村まで探しに行った。彼はちょうど福音村にいた。一緒に戻ってきて，顧祝同[8] の布告（兵隊を宿泊させるのを禁止するというもの）を一枚持ち帰って貼った。福音村も兵隊が宿泊していた。

保甲（ほこう）長[9] が稭（わら）を借りに来た。農事部[10] に預けていた陳老三のわらを 140 斤ほど貸してやった。

3 月 15 日 曇り　今日はたくさんの軍隊がやってきて，あちこちで部屋を探していた。農事部にはまだ来ていない。

3 月 17 日〔日曜日〕曇り　〔福音堂教会の〕礼拝が終了した後，昨日売ったわらたばの売り上げ金を持ち帰った。

午後に人が来て，〔兵隊の炊事用の〕コウリャンのわらを買うか，借りるかの商談をした。丁震亜は一斤 80 元と価格を定めたが，彼らは値段が高いと言って，借りたがった。私は回答せず，明日もう一回来て丁震亜[11] と相談してもらうことにした。

3 月 28 日 ときどき晴れ　午後，ある一人の兵士が農事部に宿泊したいと言ってきたが，承諾しなかった。二度目には，4 人も来たが（丁震亜はすでに出かけた），やはり承諾しなかった。兵隊たちは帰るときに明日も来ると言い残した。

3 月 31 日 ときどき晴れ　午前中，兵隊が長いこと門を叩いていた。私の母が門を開けにいくと（このとき兵隊たちがちょうど壁を乗り越えて入ろうとしていた），5，6 人の兵隊が入ってきた。彼らはまず我が家の材木をとろうとしたが，私ががんばって取り返した。さらに彼らは南側の脱穀場においてある，コウリャンのわらと木切れを運んでいった。私一人では阻止することが不可能なので，彼らの上司に会いに行った。彼らの張小隊長に交渉した結果，張小隊長は材木は返すが，コウリャンのわらはしばらく借りると言った。私はこの条件をのまなかった。張小隊長は，保長を通

して返上することにしたく，私たちは一緒に保長を探しに行ったが，見つからなかった。韓良璧が仲介に入ってきて，張小隊長は自分たちがしたことを不適切と認め，もっていかれたものをすべて返してくれると約束した。

このとき，錫栄[12)] が丁震亜に連絡したため，丁震亜もやってきた。私は丁震亜と一緒に行って，まず，木切れをとりもどした。その後，鄭班長がふたたび，やって来て，コウリャンのわらをとりにくるようにと知らせた。〔私は〕彼と南の部屋で少しだけ話をした。鄭班長は貴州出身で 24 歳，家には兄が一人いるのだという。彼は民国 26 年〔1937 年〕に故郷から出てきたのだ。

4 月 5 日　晴れ	周辺に宿泊していた兵隊がみんないなくなった。
4 月 8 日　ときどき曇り	ある兵士が北の庭でアカシアの木をのこぎりで切っていた。阻止したが無駄だった。
4 月 17 日　ときどき晴れ	昨晩から風が吹きはじめ，だんだんと強くなった。今日の午前中はとくにひどく，天地ともに暗くなっている。城の北では雹が降ったという。
4 月 27 日　曇り	午前に兵士が二人，小さな木を切りに来た。とめたので，一本の小さい木を切るにとどまった。
5 月 19 日　晴れ	今日はまた南関会という定期市の日だった。これはできたばかりで，一回目の市場のこともあって，知っている人が少ないせいか，物売りの数も多くない。
7 月 9 日　曇り	一人の兵士がやってきて花を見て，花が欲しいと言った。突然大雨が降り出して，家に雨をしのぎにきたのだった。雨が上がってからやはり花が欲しいというが，あげなかったので，彼は自分でとろうとした。百日草を一株あげ，これは交換するものだと説明した。
7 月 14 日　ときどき曇り	蝗（いなご）。午後 2 時にたくさんイナゴがいるのをみた。大門の外に見に行くと，たくさんのイナゴが東北から西南に向かって飛んでいった。真南のほうは雨が降っているようで，イナゴが引き返して北に向かって飛んでいった。大雨がしばらく降っていた。辺りにはたくさんのイナゴが落ちていた。 なかには東や南に飛んでいくものもあったが，多くは南や西南から北や東北へと飛んでいった。夜にもまだ南に飛んでいくイナゴがいた。
7 月 15 日　ときどき晴れ	兵隊が来て木の枝を切り，壁のうえの花瓦の一部をめちゃめちゃにし，深く謝罪した。今日の夕方，またイナゴが少数ではあるが東南から北へと飛んでいった。辺りには落ちていなかった。
7 月 16 日　ときどき曇り	午前に西や南からイナゴがやってきて東へと飛んでいった。
8 月 2 日　晴れ	朝に兵隊が塀を越えてやってきたので，やめさせた。
8 月 8 日　ときどき晴れ	やってきて草を刈る兵隊がいたので，やめさせた。
8 月 13 日　ときどき晴れ	今年の水の勢いを見ると，民国 20 年の水害のときよりやや弱い。
8 月 14 日　ときどき晴れ	午前に敷地内で草を刈っている兵隊を追い出した。

8 月 19 日 晴れ	ここ数日，毎日のように兵隊が敷地内にきて草を刈っていくので，敷地内の草は刈りつくされてしまった。
8 月 20 日 晴れ	兵隊が馬を連れてきて敷地内で草を食べさせていた。丁震亜が彼に話をつけに行ったが，言い争いになってしまった。私が行って丸くおさめたところ，やっと帰った。
9 月 2 日 晴れ	この二日間はとても熱く，まるで〔夏のもっとも暑い時期の〕伏天[13] のようだ。
9 月 7 日 ときどき晴れ	草刈りの兵隊を追い出した。
9 月 10 日 ときどき曇り	今日は中秋節だ。夜，黒雲が月を遮ったが，それでもたくさんの人が爆竹を鳴らしていた。
10 月 28 日 晴れ	10 時ごろ，李恒連が壁の外から，南側で兵隊が壁の煉瓦を解体していると私に知らせた。私はすぐさま駆けつけてこれを阻止し，煉瓦を持っていかせないようにした。兵隊は立ち去った。私は解体された煉瓦を全部敷地内に拾い入れた。一人の兵士が立ち去る際に，彼らの上司には言わないでくれと私に頼んだ。 昼食後，李恒連の息子がまた兵隊が煉瓦をはずしていると告げに来た。私はまた行って阻止した。まさか止めることができないとは思わなかった。彼らの長官と話をつけに行かざるをえなかった。私は彼らと一緒に駅の南側の倉庫まで行き，彼らの班長と会った。一人は王といい，山東人で，もう一人は南方人だった。話合いは長い間続いた。山東人は人が良かったが（話しのわかる人物であった），煉瓦を解体した兵隊は彼の班のものではなかった。後にとられた煉瓦を戻してくれた。二人の兵士に担がせて送り返してくれた。 私は煉瓦を敷地内に運びいれ，草で覆い隠した。二度も李恒連が知らせてくれたので，二度とも彼に謝意を述べた。
11 月 2 日 晴れ，少し雲	兵隊が木の枝を切って持っていった。私は行って一部だけ返してもらった。 またも麦畑の羊を追い出し，ついでに一頭の羊をつかまえてきた。
11 月 8 日 曇り	南関の郷公所に行き，各甲長に羊を放牧し麦の苗を食わせるのを禁止する通知を出すよう求めた。 〔私は〕兵隊が木を切るのをまた止めさせた。
11 月 11 日 ときどき曇り	砲兵が野外訓練をしていて，柳の枝を折った。
11 月 15 日	〔教会の〕病院[14] の南側の東の方にある大通りで，郷公所[15] が人夫を雇い工事をおこなっている。彼らは農事部敷地内の土を使いたいようであったので，私はそのことを李子鎬と李牧師に知らせた。二人は行って，工事の責任者に，我々の敷地内の土を使ってはいけないことと，用水路の外側の土なら掘り下げてもいいと伝えた。
11 月 16 日 晴れ	宿県中学から参観に来た唐さんを接待した。
11 月 20 日 曇り	誰かが北園の土で作られた穀物の山の外側の土をこっそり掘っていた。私は木の看板に，土を掘ることを禁止すると書き，木に掛けた。さらに，人が穴を作って泥をこねることも禁止したり，土の中の小道を削ったりしていたので，汗をいっぱいかい

た。
午後に，宿泊したいという兵士があったので，農場であると教え，さらに〔兵士を宿泊させないという〕布告を見せてやると，彼は帰っていった。
その後，さらに三人の兵士が宿泊したいと言ってきた。布告を示して見せると，裏の庭を見に行っただけで帰ってしまった。付近にある金持ちで部屋の多いところはみな兵隊が宿泊している。
また北側に行って，軍隊が放した馬を追い払った。

11 月 21 日　ときどき曇り　南関郷〔公所〕のある人も北園の土を掘らせないことに賛同し，さらに，今度土を掘るものを見つけたら，南関郷〔公所〕に送り処罰するべし，と言った。

11 月 25 日　ときどき曇り　敷地内で土を盗もうとした子どもを捕まえた。その子を脅かしたら，なんと夏さん（李恒連の娘婿）の弟子だった。また肥料の箕[16] をくれないかと言ってきたので，渡した。

12 月 2 日　晴れ　ある兵隊が柏樹（ヒノキ科の木）の枝を折っていたので，やめさせた。

12 月 16 日　曇り　南関を見ると，火事が起こったようだった。

12 月 31 日　晴れ　兵隊が来て柏樹を折りたいと言ってきたが，南大門で話をつけ，中に入れさせなかった。

1947 年

1 月 2 日　晴れ　午前に李佩五が遊びにきた。

1 月 4 日　曇り　昨夜から雨が降り，今日の正午になってやっとやんだ。雨量は 1.45 センチメートルだった。

1 月 9 日　曇り　城門の入り口で学生が寄付を募集していた。300 元を寄付した。

2 月 1 日　晴れ　丁震亜は東関に戸籍を届け出ることをよしとせず，南関に届け出た。

2 月 5 日　晴れ　南の方に塹壕が掘ってあった。

2 月 7 日　ときどき曇り　〔宗教団体の〕道徳会[17] の陳さんを接待した。

2 月 8 日　晴れ　（住むための）部屋を求めて兵士がやってきた。〔宿泊禁止の〕布告が門の外に掛かっていたのに，気がつかなかったようで，だいたいを見ただけで宿泊したいと言った。ここは教会の農場で空き部屋はないと告げたが，聞き入れないばかりか怒り出し，人を殴りだしそうな様子だったので，話をさせず，大門に「548R〔部隊の〕本部がここに駐在している」と書いた。その後，またもう一人が南の家屋を見に来た。〔この人の〕態度はいくらかましだったが，少し話し合いをした後，帰った。〔私は〕すぐに南関に行き，李牧師に報告した。ちょうど西牧師が 2 階におり，許牧師もいた。李牧師も西牧師も〔農事部の農場に〕来ようとしたが，許牧師は，兵隊はすでに帰ったので，行っても仕方がないと言った。西牧師に名刺を一枚もらった。
また，許牧師は私と一緒に『公報』をとりに行った。『公報』には「国防部が電報で各地部隊に，占拠していた教会施設から

出ることを命ずると掲載されていた。

夕方，また一人の兵士が（丁先生の夫人が出たばかりですぐ戻ってきた）やってきて，各所を見てまわった。私も彼に，ここはアメリカ教会〔所有〕の農場だと告げた。彼の態度は温和だったので，詳しく話をした。彼の姓は「江」か，あるいは「姜」か「蔣」で，話をする声も大きくなく，ゆっくりだった。最後に彼は，もしよそで部屋を見つけることができたらここには泊まらないが，もし見つからなかったらやはり宿泊したいと言った。

私は陳知文を使いにやって李牧師に知らせた。しばらくして李牧師と西牧師がやってきた。私は状況をおおまかに説明した。彼らが帰るとき，私は西牧師にお願いして，今度兵隊が来たときに彼らと交渉できるように，メモを書いてもらった。

南の家屋に明かりをつけて書いてもらった。英文だった。だいたいの意味はこうである。教会の施設はこれまで兵隊を宿泊させたことがない。国防部も命令を出している。ましてこれら家屋と土地はアメリカ教会に属しているので，兵隊を駐留しないでください。

2 月 9 日〔日曜日〕晴れ

午前にまた兵士が来た。一人は昨日の午前中にきた扣慶祥小隊長で，もう一人は昨日の午後にきた「江」某だった。彼らは 183 師 548 団（勝利したばかりの時は，先に来ていたのは 138 師[18] だった）のものだった。私は西牧師の手紙を彼らに見せ，さらに少し説明を加えた。彼らは部屋を見てまわったあと，西牧師に会いに行きたいと言った。私は扣小隊長に同行して福音堂についたが，西牧師は説教の途中で，李牧師は〔その日の布教活動の〕主席だったので，結局許牧師にしか会ってもらえなかった。許牧師は国防部の通告と，長官の布告などをあげて，これらの命令に従い，国家の威信を保持し，外国人に蔑視されないために駐留しない方がいいと求めた。扣小隊長は思案の後，面倒を避けるために宿泊しないと約束した。私が南関学校のことを話題にすると，彼は見に行った。

帰ってからまた農地に入ってきた馬を追い払った。

晩，軍隊がやってきて，家の裏手で人が騒いで馬が嘶（いなな）いているのが聞こえた。

2 月 10 日　曇り

兵隊が軍隊を探しに来た。彼にここには宿泊していないことを告げた。

昼にまた兵士が来て部屋に宿泊したいと言った。彼と交渉し，宿泊しない事になったが，彼は蔑視したりあざ笑ったりするような話しかただった。

許牧師が一枚の薛岳[19] の出した布告を送ってきた。私はそれを看板にして貼り付けた。

2 月 11 日　ときどき晴れ

昼に一人の兵士が来て部屋を見た。彼はカトリックを信仰していると言い，南の家屋を見ただけで，また我が家の入り口にやってくると，すぐに帰ってしまった。

2 月 13 日　曇り

道中で良恭は郝鵬挙[20] が投降した後，八路軍[21] に再び包囲さ

	れ捕まって連行されたと語った。 張秉謙の弟が，自分のピストルで股を撃ち怪我をして，いまも入院している。
2月16日	兵隊が木をのこぎりで切るのを阻止した。
2月18日 晴れ	三里湾[22]で作物の見張りをする王化賢が，刈り入れ時期の前の穀物を見たいという。盧和修に訊いてみたところ，もう刈り入れ前の作物の見回りをしていないという。戻って彼に外国人には作物の見回りをさせないと伝えると，彼はとても怒って丁さんはまだ何十畝の土地を持っていると言った。
2月26日 晴れ	ある兵士が農事部のなかで部屋を一つ借りて宿泊したいという。私が自分の一存で決められないことを告げると，彼は明日また来たいという。あくる日，やはり来て，丁震亜と長い間面談していた。丁震亜は彼に昼間遊びに来るのだったら良いと返答した。
3月10日 晴れ	兵士が来てドアを蹴り続けた。私は止めることができず，〔妻の〕錫栄が門を開けた。その兵士はどうやら戦場から逃げてきたようだった。彼は小発井戸のそばの木から枝を一本とって，錫栄の体を二回叩いた。私は彼を押しのけた。兵士はさらに南の家屋に行って，机を一回，強く叩いた。その後，私や丁先生の夫人はいずれも彼を非難した。一人の士官が敷地内に入って辺りを見渡して，すぐに出て行った。その兵士も出て行って，宿泊することはなかった。私は思うに，あの兵士は人を殴ったから，揉め事になるのを恐れ，宿泊することをあきらめたのだろう。 また北園に行って入ってきた馬を追いだした。 生老夫人[23]が西安に行くというので，汽車の駅まで送っていった。帰ってきてから，4人の兵隊が来て，わらのたばを10本，持ち帰ったことを知った。
3月13日 ときどき晴れ	東関砲兵営政治部の翁さんが来て，柏の木をひと株，無理やり掘り起こして持っていった。
3月19日 曇り	一人の兵士が桑の木の皮を探して，脚の痛みを治そうとしていた。
3月21日 晴れ	張星坦の弟と竟成会社社長の李さんが来て，アカシアと青桐をそれぞれひと株買った。価格は一万元だった。
4月12日 晴れ	宿県県立〔農業〕推広所[24]主任の楊紫宇が連絡をしてきた。
4月20日 晴れ	5時過ぎ，県政府および各機関，法人団体〔の方〕（4名）が共同で農事部に来て貯蔵物資の検査を行った。私は帳簿を彼らに見せ，糧食は余っているどころか足りないと告げた。彼らは貯蔵物資を見たいと言ったが，私は鍵がないと答えた。彼らは敷地内を見てまわった。倉庫を見ていたところでまた尋ねてきたので，私は種を貯蔵する部屋だと答えた。 私はちょうど城内に行って，丁震亜にこのことを知らせようとしたところ，馮克剣と王百鎔がやって来て，コウリャンの普及事情について尋ねて行った。
4月27日 晴れ	軍人が猟銃で鳥を打っていた。

5 月 8 日　ときどき晴れ	午前に〔宿県県立農業〕推広所指導員の李世美が見学に来て，合弁農場を作ることについても教わっていった。
6 月 8 日〔日曜日〕ときどき晴れ	3 人の兵士が花を探しにきて，3 株のコウリャンのわらの花を掘り起こしていった。 礼拝が終わってから，県党部[25]に行き美術展覧を見た。書画などがあった。
6 月 29 日　晴れ	午後に県政府建設科の蒋さんを接待した。彼は気象にとても興味があり，彼自身も天気のことを記していて，特に雨量の測量器に注意を払っている。
7 月 9 日　晴れ	丁震亜を手伝って，楊紫宇の調査票に書き込んだ。
7 月 16 日　晴れ	早朝に兵隊が来て花を欲しがっていたので，飛び起きて止めた。東洋菊を欲しがったがあげないでいたら，言い争いになった。3，4 株の百日草だけやった。
8 月 2 日　ときどき曇り	いま北園に防水堤を築くことになっている。私は見に行って，農事部の土地の土を使わせないようにした。陳知文が来て，王化謙が強引に労働者に農事部の土を運ばせているといった。私はまたも交渉に出向い，これはすべて王化謙が責任を負うことになると言った。私は陳知文を使いにやって丁震亜に知らせた。丁震亜は王化謙が公務を口実にしてすでに使ってしまったので仕方ないと言った。
8 月 15 日　晴れ	嵆牧師が撮った写真のうち，1 枚は奇怪な胎児を写したものだった。病院で生まれた一人の子どもは，首が 2 つ，手が 4 本，足が 4 本あったという。しかし，残念なことにあまりはっきりと写ってはいなかった。
8 月 24 日　晴れ	劉奉何が戻ってきて，兵隊が農場の土地に入ってコウリャンを刈り取っていたので，阻止に行ってきたと言った。劉奉何は彼らに殴られた。私と彼とで兵隊たちを探しに行くことになった。兵隊たちは啓秀（女子校）の北側，郷公所の南側に宿泊している。私は行って劉奉何を殴った者について尋ねたが，彼らは認めなかった。彼らの上層部に交渉しようとすると，最後に一人の士官が出てきた（特務長だった）。私が事情を話し，止めてもらうよう頼んだ。彼（特務長）もまた詫びを述べた。
8 月 25 日　ときどき晴れ	〔宿県県立〕農業推広会の劉さんが来て，141-9 号の麦を買うことについて交渉してきた。
9 月 18 日　晴れ	水勢：水が引いた。9 月 5 日からまた河の水が増え始め，12 日に最高水位に達した。夏の水勢と同じくらいの多さである。東にあるつり橋は，橋梁の横木まで水位が上がってきている。南の城門の外側にある橋下の石のうえに座れば，洗濯ができるぐらいになった。南河の水は道路わきの用水路を流れて福音里の門に至っている。河の堤はまだ決壊していないので，畑には水が入っていない。16 日から水がだんだん引き始め，18 日に 1 尺ぐらい引いた。
9 月 22 日　晴れ	県教育局長の馮毓金（三品）は馮毓淑[26]の弟だ。彼は学校教科書の販売を請け負っていた。売値は書店の約二倍で，そのことが新聞に掲載された。『救国日報』，『中央日報』上海版，『南京

中央日報』の21日の社会コラムなどに出ていた。合計で五回という多さで，〔その記事は〕赤い筆で囲まれ，街中に張り出されて罵られた。

9月24日　ときどき晴れ　午前に街に貼られた教育局長・馮毓金の声明を見た。省教育庁令を謹んで受けるようにというもので，書いてあるのはだいたい丁震亜が言っていたことと同じだった。

9月27日　ときどき曇り　昼にちょうど飯茶碗をしまい終えたところで，兵士が来て，鉄剣樹が欲しいと言った。小さいのを二本やったが，いらないといって，自分で掘り始めてしまった。掘らせまいとしたが止められなかった。今回は怒ってこず，掘ってからすぐ持って帰った。引きとめられないし，証文さえも書いてもらえなかった。姓は何だと聞くと，天だといった。

9月28日　ときどき晴れ　午後に県政府秘書の任沢が見学に来た。彼は聖書を手に持って福音村の集会に来ている。彼は南坪集出身の人で，中央訓練団のバッジをもっている。種子の育て方について少し話した。

9月30日　城門はまだ開かない。小東門のみが開いていて，出るのは良いが，入るのは許されていない。

今朝4時に飛行機が来て照明弾を二発落としていった。その一発は東北，もう一発は東南に落とされた。

張公才が聞いたところによると，八路軍が両半張家〔地名〕にやってきたらしい。まもなく連発した銃声が聞こえてきた。不安になってきて，字も落ち着いて書けなくなった。

陳知文によれば，昨夜から現在まで列車が一本も走っていない。たくさんの人たちが東関から南に逃げた。陳老三も逃げてしまった。

午後に私は李牧師に会いに行った。彼もどうすることもできず，帳簿などを集めて，保存，防火にそなえるようにと言った。またその他のものは運び出すことができず，ほうっておくしかないため，あまりあちらこちらへ逃げない方がよい。人がいなくなったのに乗じて物取りをするものもいるからである。今度来たのは趙匯川と李鳳楼という人たちである。合計二つの師団で，1万人余りだ。口子は一昨日陥落した。西三鋪，四鋪，夾溝，符離も陥落した。柯さんは27日午後に城内に行って兵隊に病院を守るようと頼んだ。〔農事部〕倉庫の小麦粉を城内に運んで，李牧師の夫人の家にも立ち寄った。彼女は月餅を二個くれた。李家の祠堂は入ることも出ることもできた。帰ってから公務室のものを整理し，帳簿などをかき集めた。夕飯を食べ終わったばかり，だいたい6時ごろに南関でまた銃声が聞こえた。すごい数だった。

陳知文が帰ってきて，八路軍がすでに南関に来ていると言った。私は人夫に刈り取った豆を集めさせた。また，私も自分の貴重品を提げ籠のなかに集め，運べるようにした。〔妻の〕錫栄に必要な衣服を包ませ，防火のためいつでも持ち出せるようにした。

また人夫をやって，張公才のところの西側にある雨水の井戸の

なかに木の板を何枚か敷き詰めさせ（井戸の中には水があった），人が入って銃砲から身を隠せるようにした。
また，荷車に載せていた実験用の大豆を，車から敷地内に運び入れ，火の手を避けるようにしておいた。
私は二人の人夫に寝ずの門番をさせ，他の人たちは先に眠らせた。
母には上の二人の子と，錫栄には下の子と一緒に寝るように言った。私は寝なかった。時刻はすでに 8 時だった。陳知文の妻が私のところにきて長いこと居座っていた。9 時過ぎには彼女を寝るようにと帰らせてから，私はようやく天候気象を書き記した。陳知文がまた話をしにきた。私は 12 時半にようやく眠った。
今日の昼間，飛行機がひっきりなしにやってきた。午後は北の方で爆弾が数発投下され，機関銃が掃射された。飛行機は P51 型で，夜には四度やってきた。三度目に来た時は照明弾を落としていった。地上から打ち上げたものもあったようだ。一本の赤い光が空中で炸裂した。赤い光だった。明るくはなかった。時間をおかずにとある光が大きくなり，長い間光っていた。飛行機は三回旋回したがなおも落下してくることはなかった。昼間は北に向かって，夜は南に向かって発砲したようだった。夕方から夜半までの間は三回銃声が聞こえた。大砲のもあった。眠ったあとは銃声が少なくなった。小銃や機関銃の音は絶え間なく聞こえた。雲が出ていたせいで月の光も明るくなかった。

10 月 1 日 曇り

朝食の後，南関の河西で依然として南に逃げていく人がいた。病院の東側の壁にはたくさんの穴が開いていて，南の敷地にも塹壕が掘ってあったが，兵隊も一般人もいなかった。民家の入口にはまだ人がいた。夜が明ける前に一度，飛行機が飛んできた。午前には二度，飛行機が来た。西関は火事が起こったようで，長いこと煙が立ち上っていた。朝は銃声がたくさん聞こえ，それからだんだんまばらになった。また，北の方で別の銃声が聞こえた。
午後，飛行機が四度飛んできた。三度目は三機，四度目は四機だった。南の方で爆弾が落とされたようだ。P51 型の飛行機だった。数発の砲弾が南側のある無縁墓地〔身寄りのない人や身元のわからない人が埋葬されたところ〕に落ちた。南関の西側にも一つ落ちた。毎回，飛行機が来る前後には，かならずひとしきりの銃が発砲される。5 時半に銃が撃たれ，飛行機が旋回している。二発の爆弾が投下された。近かったので，家屋の土がはがれおちた。急いで張公才のところを見に出かけ，大門にも行って見てきた。南関ではどうやら二ヶ所で火が出たようだ。一ヶ所は啓秀の北側あたりで，一ヶ所は南関十字街のあたりだった。飛行機は何度も掃射し，大砲はさらに絶え間なく轟いた。約 5 分から 10 分して見てみると，南関の南門と東門からたくさんの人たちが逃げ出してきた。機関銃や大砲が発砲された。近くにも落ちているので，〔避難している〕彼らのこと

がとても心配になった。城を守る軍も砲撃し，およそ一時間の間，大砲や小銃の音が絶えない。一種の特別鋭い響きが聞こえ，火がどんどんひどくなった。三ヶ所から大火が上がった。そのうちの一ヶ所は西関のようだった。

夜に一機の飛行機が飛んできた。8 時か 9 時頃に，また一機飛んできて，一発の照明弾を落としていった。今夜は銃声が少なく，一時間くらいで何発か銃声がしたくらいだった。私が眠ってからまた一機の飛行機が飛んできて，爆弾を二つ落とした。近くのようだった。

10 月 2 日 晴れ

7 時，大門で見ていると，戦乱から逃げて行った人たちが次々と戻ってきた。5 人の兵士がきて「八路軍はいるか？」とたずねた。「いない」と答えるとまた南関へ行ってしまった。

午前 10 時，南関に同僚や旧友を見舞いに行き，戦地も巡視してきた。〔宿州キリスト教会経営の民愛〕病院の東，丁万鈞の松の林の南は，砲弾のあとがあった。南側の墓地の丘は，塹壕が掘られていた。北に向かって作られているから，八路軍が作ったものだろう。病院の裏庭の壁にはことごとく塹壕が掘られ，壁の表面にはいくつも銃の発射口が開けられていた。病院の東南の隅，砲塁の西には，壁に入口が開けられていた。院内には薪（まき）が散乱し，南門の外にも塹壕がたくさんあった。病院の南側の壁と町中には，標語が貼り尽くされていた。そこには，「政治協商会議路線を堅持し，蒋介石の独裁に反対しよう。民主自立を堅持し，アメリカの侵略に反対しよう。蒋介石軍隊の兵隊は銃口を反対側に向けよう。すべての愛国知識人が早く人民の側につくようにしよう。蒋介石は国を損ない人々に災いをもたらし，解放軍は国を守り，民を保護する。倉庫を開けて救済する。解放軍こそ人民の軍隊だ」とあった。下には「解放軍宣」と署名されていた。貼られた布告は新四軍[27)]のもので，軍長は陳毅だった。六つの項目があり，「1. 捕虜を殺さない，2. 蒋介石軍の兵隊の投降を迎え入れる，3. 信仰は自由とする，4. 交通，郵政，学校，工場を保護する，5. 生産が損失を受けないようにする…」となっていた。私は，地元の兵隊たちがちょうど布告をはずしているところを見た。病院は内部を修理しているので，一日休診していた。しかし，砲火を浴びて怪我した人たちがたくさん診察を受けに来ており，7，8 人が後から受診に訪れていた。天福里の倉庫の向かい側に焼き払われた車があった。

私は，邵某[28)]の〔家の〕南にある隣の家から啓秀〔女子校〕に入り，砲弾の痕跡を見てみた。東球場の壁の近くには，4，5 発の砲弾が落ちたので，壁の上に弾痕があった。ビルの柱は一部分が打ち壊された。ビルの北側の東にある屋根には穴が一つ空いた。北の西側はある窓に弾が当たった。旗竿に穴があいた。ビルの西には兵士が一人（新四軍），砲弾に当たって爆死していた。ガラスは三分の二が壊れていた。厨房の敷地内には砲弾が一発落ちた。寝室のある裏の敷地内には弾が一発落下し，一

枚のレンガが落ちていた。啓秀から北の張化峯の南側あたりまでが全焼していた。さらに北にいくと，王文亮の薬屋の入り口から北まですべて焼けていた。十字街の入り口から西は橋にいたるまでがすべて焼けていた。十字街の入り口より東，道の北も焼けて，南関小学校の向かい側まで焼けていた。風呂屋堂より南，道の東側は被害がなかったが，道の西側は王金生の家と付近の二, 三軒のみ被害がなかった。
北園農地の北側に物乞いが一人死んでいた。
李栄光が言うに，宿県知事の夫人と二人の子ども，弟の嫁が啓秀の中に住んでいたという（昨日の午後，三里湾に逃げたらしい)。
劉薬剤師がこのたびの戦況についてこのように話していた。城内にはパラシュート部隊の一団，交通警察一隊と58師団[29]の留守部隊の一部，およそ3，4千人が駐留している。58師団の山砲営だけに大砲が6門あり，その他の部隊は大砲を持っていない。南関の火は，パラシュート部隊のロケットによるものだった（パラシュート部隊の別の二つの師団は，いま符离集にいる)。三つの部隊が一緒だったため，はじめは秩序がよくなかったが，連合防衛の命令が下った後は責任を分かち合うようになった。城内防衛の司令はパラシュート部隊の隊長がおこない，指揮は交通警察隊長がおこなった。
新四軍は陳毅〔の指揮下〕のもので，およそ7，8万人である。先に永城を攻めたが突破できず，その後口子，夾溝，符离を攻めた。
城内の兵糧は計画もされていないし準備もされていなかった。昨日，ようやく〔農事部〕倉庫に蓄えていた小麦粉を一日かけて運び込んだ。現在，城内は依然として軍用施設を作っている最中だ。城内にも砲弾が落ち，怪我人がでた。劉薬剤師は軍人じゃないと城から出られず，傷兵病院は中正小学校に設置されていて，彼らは文化服務部に住んでいると言っている。劉薬剤師は，南関の状況や標語のことについて私にたずねてきた。私は，南関でも約10人が死に，怪我人が続々と病院に送られていると答えた。
夜中の1時ごろ，急に機関銃と大砲の音が聞こえてきた。銃弾が青桐の葉を4，5枚落とした。銃弾は空中を火花のように飛んでいった。あまり高くなかった。また，二発の照明弾が発射された。私たちはみな飛び起きた。45分くらいたつと，銃は撃たれなくなり，4時ごろまた眠りについた。

10月3日　晴れ

朝に飛行機が二回きた。午前に城内の兵士が東のあたりの民家で白菜を欲しがり，野菜畑の主人とけんかになった。国民党の軍隊は城内のみを守り，城門を守らず，城門の外側の人を城内に入らせない。しかし，小麦粉やまき，野菜を必要とするときは，いつも関外の人からとっている。〔国民党の軍隊は〕関外の人を保護しようとしない。単昌は城内の軍隊のために，観音堂で一軒一軒の民家を訪ねて，小麦粉を集めている。

単昌が聞いたところによると，ある密偵から次のように報告があった。観音堂には数万の八路軍が駐在している。家屋の上で鉄砲を撃ったのだそうだ。城内を守る軍隊は，ガソリンのたいまつを準備し，城の付近の十五里以内の範囲にある村落を完全に焼き尽くし，八路軍をかくまうことのないようにするようだ。
郭玉明が言うには，昨夜，県隊の兵隊が南関に駐留したらしい。恐れているので，故意に城内に向けてしばらく銃を撃ち，八路軍の数が多くて防ぎとめることができなかったと嘘を言って，城内に引き返した。去るときに物を奪っていった。外庭に住んでいる卜昭聚のところの懐中電灯と綿入れの着物，子どもの服などが多数持ち去られた。八路軍は9月30日夜9時に南関に入り，まず病院に至り，即，兵を出して薬の倉庫を守らせ，〔国民党の〕中央軍の士官の父母が入院していないかどうか尋ねた。
柯さんの腕時計，万年筆も八路軍に持っていかれた（私はまだ柯さんがいつ来たのか記していなかった）。医者の孟先生の腕時計，セーターも持っていかれた。はじめ病院の裏門を叩いたが開かなかったので，南側の壁を壊して入った。
ある人が，新四軍の二人が会話をしているのを聞いた。甲は「行こう」と言った。乙は「城攻めを待たないのか」と言った。甲は「城攻めか。〔武器が不足している我々が〕素手で敵と戦うだけじゃないか」と言った。
またある人はこうも聞いたという。新四軍の誰それが，仲間にこう言ったのだそうだ。「80個の砲弾を持っていたが，すでに3，40発も使った」と。
新四軍は県立農場の南の川を渡ってやってきたのだ。県立農場で日が暮れるまで待ってから，南関に進入してきた。南関の防衛軍は一中隊相当の兵士が川を渡ってくるのを見た。南関の防衛軍はひとしきり銃を撃つと，城内へと退却してしまった。新四軍もアメリカ式の銃を持っていた。新四軍は10月1日の夜，暗いうちに，城内に向かい，ひとしきり銃を撃ちはなったあとで引き上げた。
郭玉明が三基の大砲を見たといい，司令部は李牧師の二階に設置されていると言った。さらに，李牧師のところにはアメリカ人がいるのかとたずねた。李牧師は，彼らは日本人が来たときに逃げたと答えた。さらにこの病院は，今はどこの所属なのだとたずねた。李牧師は，個人が譲り受けたと言った。
新四軍は病院の薬を持ち出す際に，借りるのだと言った。李牧師は借用書にサインと押印をさせた。
救済用の小麦粉は，荷車，人力車，手押し車を使って運ばれた。人が肩で担いだり，天秤棒で担いだりもした。食べ残した分は引き上げるときにすべて持ち帰った。
劉薬剤師が言うに，捕虜にされた6，7人の中央軍の兵士がいるそうだ。新四軍が引き上げた際，彼らはともに撤退しなかった。2日の早朝にこの6，7人の中央軍の兵士が西の城門の防衛

軍に降伏した。防衛軍が彼らを縄で繋げて入城させた。

10 月 4 日　曇り　丁震亜が城内から出たのは，カトリック教会堂から「宿県軍民連合救済会」の赤十字の腕章を借りてきたためだった。そうでなければ城内を出るのは依然として困難である。

丁震亜が言うには，パラシュート部隊が新たに 1，2 千人やってきた。宿県中学校の入口に爆弾が落ち，勤務交代中の四人の兵士と，一般人の女性一人が爆死したそうだ。その他，5 人も傷を負ったという。（専署[30] の近くで起きたことなので）そのため，専員[31] が福音堂の中の，礼拝堂の演壇の下の地下執務室に移った。許牧師はそこから出てきた。福音堂にはたくさんの兵隊が宿泊している（ここは司令部が設置されている）。

〔封鎖中の〕城内では小麦粉，まき，野菜が尋常ではないほど不足していた。ねぎは 1 斤 1,000 元以上，小麦粉は 1 斤 5,000 元もする。一般人は，一日中，家の門から外に出てはならず，公用がある人だけ往来することができる。夜は各家の門前に明かりがともっている。それは，城内と城外の区別をするためだ。すべての城門はそれぞれ 40 丁の機関銃が装備され，火薬も足りている。交通警察と 58 師団が守備をしているが，守ろうという気持ちはなく逃げたがっている。パラシュート部隊の士気は他の部隊より高い。城内の大通りには，番兵がたくさんいる。南京まで電報を打つと，持ちこたえるように，と返信があった。自動車の兵隊も戦う気がない様子だ。また，城内の兵士が，報償が欲しいと話している。県知事は 7 千万元の流通券[32] を発行し，1 ヵ月後に換金するとした。

伝え聞くところによると，啓秀の学生，教師はみな連れて行かれてしまった。ある農場も爆撃で吹っ飛んでしまった。

県知事の妻と子が啓秀に住んでいるため，県知事は 100 名の決死隊を選出し，城から出てその妻と子を救おうとしたが，専員は適切ではないとし，城門を開けさせなかった。県知事は砲手に啓秀と病院に発砲させないようにした。

盧庄の村から人が来て，その村においてあったコウリャンのわらを兵隊に 10 か 20 個持って行かれたと言った。

しばらくしてまた盧庄の村から人がやってきて，新しく来た兵士がたくさんのコウリャンのわらを運び去ったとも言っていた。

昼食のあと，急に兵隊たちがやってきて部屋がほしいと言った。一人の士官に交渉して彼に，われわれの所属を教えた。宿泊はしなかった，〔彼らは〕雨を暫時しのぐだけで宿泊しなかった。何人かの兵隊が腹だちまぎれに「皆殺しにして，焼いてしまえ…」などと話していた。陳知文の持ち物のむしろ 1 枚とマッチひと箱を持っていった。彼らは山東から陳毅の部隊を追ってきて，75 師団と 85 師団が合同で戦っていた人たちである。

10 月 5 日　半ば曇　観音堂の橋が解体された。〔道路が〕ぬかるんでいるので通る際にとても苦労した。その後，土を埋め立ててずいぶん通行しやすくなった。

大東門の橋は棒や板を組みあげて通行できるようにしている。小東門は身分証だけが必要だ。福音堂は兵隊でいっぱいで，入口で身分証が必要である。

許牧師が启徳の寝室で集会があると言った。許牧師は,〔『聖書』の〕使徒言行録17章：22–31節について話をした。孫光斗長老が祈りをし，兵隊が学殿に宿泊していることは神の意志だと言った。

10月6日 晴れ　はじめ兵士が一人で来て各所を見て回り，帰っていった。そのすぐあとで士官を一人連れて戻ってきて，東南の家屋に宿泊したいと言った。その建物のなかには化学肥料がたくさん置いてあり，ものでいっぱいになっていると言ったら，すぐに帰ってしまった。

10月7日 晴れ　昼食をまだ食べ終わらないうちに，また兵士が来て花を欲しがった。装甲車部隊の兵士で，鉄剣樹も欲しがった。それをあげず，いくつか草花をあげると，やはり鉄剣樹が欲しいという。断念させることができず，小さいのを2株引き抜いてやった。腹がたって空腹感もなくなった。

10月8日 晴れ　午後に二人の兵士が隠れにきた。兵隊になりたくない，家に帰りたいたいという。家は〔安徽省〕蒙城にある。まず私のところに逃げ込んできた。私は彼らに裏庭の丁震亜の見張り台の上に行かせた。夕食の後で彼らを見に行き，麺類を食べさせた。一人は普段着がないというので，私は普段着を探してきて彼にあげた。脱穀場の麦わらのなかで眠らせた。背の低いほうは王さんといい〔安徽省〕太和県の出身で，高い方は高さんといい蒙城の出身だという。

10月9日　朝，その二人の兵士は，先種〔人名〕の家から小麦粉を買い，自分で食事をつくって食べた。丁震亜と私は一緒に行って，食事のあと出ていくように告げた。

10月10日 晴れ　午後，ある兵士が来て，陳老三が預けていった稲わら8，9束と，農事部のコウリャンのわらを持って行こうとした。長いこと交渉した結果，やめて持っていかなかった。また，わらや，鉄のクワを借りていこうとする者もいたりして，ほんとうに厄介なことだ。

午前中に大砲の音をたくさん聞いた。午後，八路軍がまた西三鋪に来たと聞いて，皆がまた慌てだした。

10月11日 晴れ　兵士がまきを買いたいと言ってきた。丁震亜が砕いたコウリャンのわらをいくらか売ってやった。

10月12日 晴れ　兵士がまきを買いにきた。砕いたコウリャンのわらを1斤300元で売ろうとしたが，高いと嫌がり買わなかった。

10月18日　兵士がわらのたばが欲しいと言ってきた（誰かがここに置いていったものだ）。長い間交渉した挙句，彼に住所と名前を書き残させた。住所は書いたが名前は書こうとしなかった。わらもいらないと言って帰った。

11月6日 晴れ　兵士が二度来て部屋を見た。交渉したが，宿泊しなかった。

11月7日 晴れ　県立農場が人力車一台分の農具を農事部に預けている。ほかに

	汰除機（穀実線虫病の麦を除く）という機械3機もあった。
11月8日 ときどき曇り	昨夜，共産党軍が凌家橋で鉄道を爆破した。今日は汽車が走っておらず，城門の検査はとても厳しかった。
11月10日 晴れ	楊紫宇の世話をし，持ち物を農事部にあずけた。
11月13日 晴れ	兵士が来てちょっと見てすぐ帰った。腕に赤い布をつけていた。呉化文の部隊の関係者らしく，多くは北方人で，農事部の周りにたくさん宿泊している。
11月21日 晴れ	城内で兵糧の徴収があった。兵糧の貸し出しの取り調べもあった。その数は合わせておよそ10万斤で，そのうちの2万斤は20戸の金持ちの家に割り当てられている。だから，薛夫人がやって来て徴収の小麦粉をさらに割り当てした。
11月22日 晴れ	今日，南北〔に走る〕列車がやっと通った。南京の新聞も来た。
11月25日 晴れ	楊紫宇が〔農事部に預けている〕自分の持ち物を見にきた。
11月27日 ときどき晴れ	楊紫宇が自分の持ち物を見にきた。
12月2日 晴れ	軍隊が作った防御陣地を解体することに関して，嵇牧師は，2，3日待つと言った。教会の建物に兵隊を宿泊させてはならないという蒋主席[33]自筆の命令の写真を手に入れてから，解体するのが一番良いと言った。
12月3日〔水曜日〕晴れ	また兵士が部屋を見にきた。張公才が嵇牧師を呼びに行った。しばらくして兵士が入ってきた。私がちょうど小隊長と交渉をしていたとき，嵇牧師と中隊長もやってきた。嵇牧師は，教会の部屋に宿泊してはいけないという命令があることを話し，ここはアメリカ教会の資産で，自分はただ代表であり，自分の一存であなたたちを住まわせることはできないから，上司と話をしたいと言った。中隊長は，部屋を探しなおすことにして，もし見つかれば宿泊しないと言った。嵇牧師は帰った。二班の兵隊が南の脱穀場の部屋で休んでいたが，彼らもみな帰った。 二班の兵隊が来て工事をやっていた。土で壁の根もとに一人が立てる踏み台を作り，壁の外を見渡せるようにした。〔この工事のため〕麦と小さなトウサイカチの木の一部が倒された。 東南隅の壁がまた掘り開けられていた。陳知文に嵇牧師を呼びに行かせた。彼〔嵇牧師〕は城内からやってきた（水曜日のお祈りの会が終わった後だった）。嵇牧師はなぜここで工事をするのかを質問した。また，ここはアメリカのものだ，戦時もアメリカは中立を守っていると言い，もしくは長官と話をさせろ，などと言った。兵隊は大門を閉めさせなかった。嵇牧師は帰った。兵隊も帰った。 嵇牧師が人夫を呼んで交替で大門を見張らせた。兵隊がまた，大門を開けてはならない，大門を通らないのであれば，閉めて施錠してもかまわないだろう，と言ってきた。
12月4日 曇り	嵇牧師が，兵隊が工事をしているかどうか見にきた。彼に，兵隊は来ていないと告げた。〔嵇牧師も〕大門を閉めなさいと言った。そして，嵇牧師を連れて，昨日行われた工事を見に行った。 嵇牧師によれば，昨日国防部の人間が，25師団が行った工事を

視察に来たという。
趙良恭が来て，村に泊まっている兵隊は威勢がいいと言っていた。

12月5日 晴れ　兵隊が北園で土を掘って運び去った。私が交渉に出向いたが無駄で，かえって彼らの不条理な話を聞かされた。しまいには，北側のくぼみの当たりの土まで運び去ってしまった。

12月7日 曇り　南側のトーチカのなかに隣の家のドアが一枚あったが，誰かに持って行かれてしまった。

12月8日 曇り　南側のトーチカの中の材木が，昨夜またも盗まれた。
夜，また人夫とトーチカで盗まれなかった8本の材木を解体し，持ち帰ってきた。木のドアで壁の穴をふさいだ。
私たちがトーチカの材木を解体したとき，こっそりと行ったものだったが，張公才の母親があいにくの大声で「あんたたち，南にいるの？懐中電灯が光っているのを見たのだけど，何をしているのだね」と言ったので，私はひどく怒った。

12月10日 晴れ　楊紫宇が来て彼の持ち物を持ち帰った。「小型農具を受け取るための一覧表」を追加で書かせた。

12月13日 曇り　陳知文が私に，兵隊が来て本院の西南隅にあるトーチカを解体していると告げた。交渉したがだめで，大小の材木を11本，水力エンジンの棚板1枚，はかり1本，南農場の窓2枚，農事部のぼろぼろの梯子1つ，一般の民家のドア4枚，砕いた板などを持って行ってしまった。レンガはまだ使わないようだった。南関に行ってみると，敷地の西北の隅で工事が行われている。
李牧師に会い話した。彼は交渉に行くべきだとは主張しなかった。
北園の土地の話に及んだ。李牧師は私を，李副連隊長と譚さんに会いに行かせた。〔彼らは〕福音村一号に住んでいた。
北園の土地は，練兵場として使われ，閲兵台はもともと北側にあったのだが南に移動され，午後にはさらに西に移動された。

12月19日 晴れ　兵士が，射撃訓練をしているから，南の壁に行くなと言いに来た。
〔趙〕先種の父親（趙成英）が，南の壁が銃で撃たれて穴が二つ開いていると私に教えた。私は行ってレンガでふさいだ。

12月20日 晴れ　22時に遠くかあるいはやや近くかで銃声が聞こえた。

12月23日 晴れ　兵士が北園のトウサイカチを切っていた。私が交渉しに行ったが，すでに何本か切られていた。人夫を呼んで引っ張って帰ってきた。
ある兵士が，北園の麦畑を掘っていた。話し合ったが無駄だった。丁さんに報告したとき，丁さんはちっとも焦らなかった。
丁震亜は決算がおわり，城内に赴く際，南関に行き嵆牧師に話した。

12月27日 晴れ　兵隊がみな引き上げたので，私と人夫とで西北角のトーチカを解体した。陳知文は北園の土を犁で耕した。

12月29日 晴れ　兵士が来て木を切っていた。ここは農場だと教えたら，彼は遠

	慮して一株切っていった。〔その人の軍服に記された〕符号は生龍，名前は宋金だった。

1948 年

1 月 5 日	中央軍が〔安徽省濉渓県〕臨渙〔鎮〕に至ったのだそうだ。
1 月 11 日　ときどき晴れ	劉登科が来て，〔安徽省蒙城県〕板橋集で共産党軍が土地の分配を行い，闘争ははなはだ熾烈で，たくさんの人が死んだと言った。 1 時半に兵士が来て部屋を見ていた。5，6 人でいずれも士官だったが，少佐も一人いた。一通り見て回って，一中隊がここに宿泊したいと言った。私は彼らに，ここは教会が設立した農場で，宿泊したいなら責任者と交渉しなければならないと言った。彼らはできる限り宿泊しないようにするといい，また別の場所を見に行った。
1 月 13 日　ときどき曇り	兵隊がトーチカを造るときに，丁万鈞の家の墓場にある松の木を三本切っていた。私たちがトーチカを解体する時に，その三本の松の木が庭の中に置いてあった。李克寛がそれらをもっていった。
1 月 18 日〔日曜日〕晴れ	北園を見に行くと，兵隊がちょうど地面を平らにしているところだった。練兵場をつくるつもりらしい。交渉したが無駄で，みんな上司に聞いてくれと言っている。私は李牧師に伝えたが反応はなかった。嵇牧師は英語クラスで授業中だった。 李子鎬が私に病院の交通溝〔陣地内の塹壕とその他の陣地構築物をつなげる溝の堀〕に大麦を植えさせた。
1 月 19 日　晴れ	午前中に仕事を割り当ててから，また嵇牧師に会いに行った。嵇牧師と李牧師は連隊長（名前は刑宗漢といい，連隊司令部は天福里に設置されている）に会いに行っていた。〔連隊長は〕和やかで，二つの大隊に別の場所で駐留地を探させている，なぜならここの土地は試験用に使われているからだと電話で知らせた。 また，われわれの地域の状況についておおまかに話した。情報科長は，周囲に八路軍はいないと言った。
1 月 20 日　晴れ	犂で耕した土地がどうなっているか北園に見に行くと，ちょうど刑連隊長に会った。彼は，しばらく耕作をせず，あと 10 数日ほど使わせてほしい，すぐに部隊が移動すると言った。
1 月 21 日　曇り	張公才がシャベルを兵隊に持って行かれたと言った。私はまた探しに行き，観音堂小学校まで探した。彼らは返してくれず，夕方に使い終わったら返すと約束した。シャベルを持っている兵士に会った。彼は，砲兵隊の先頭班の楊班長が使うのだと言った。 また，嵇牧師に，北園の土地は刑団長があと 10 数日ほど使い，その後，部隊が移動すると言ったので，しばらく返してもらわなくてもいいだろうと言ったら，嵇牧師も同意した。 また，新しい人夫が妻を連れてきて食事をつくるようにしてもらいたいと嵇牧師に言い出した。新しい人夫について事情は，まだあまり分かっていないから，少し待ってからにしようと嵇

牧師は言った。

郵便局は中国銀行の向かい側の青年館に移転して，営業している。

夕方，私はまたシャベルを返してもらいに行った。兵士はまだ帰っていなかった。帰り道で兵士が帰ってくるところに出くわした。シャベルもあった。返せと言うとすぐに返してくれた。すみませんと詫びも言った。

1月31日　ときどき晴れ

兵士が来て木の枝を切ろうとした。私が交渉に行くと，三本だけ切って帰った。

2月4日　ときどき曇り

荷車が北園の敷地に土を運んでいる。たずねてみれば，敷地内に台を築くのだという。明日，農民節[34]が行われるためで，南関郷公所の指示だという。私は南関郷公所に行った。郷長もまた県農民協会[35]の命令だろうと言って逃げている。私は県農民協会に行ったが，知り合いがいなかった。そこの二人は農民協会の人ではないと言っていた。それから，張秉謙にばったり会った。彼に聞いてみたが，大会で通った議案なので個人では変更できないといわれた。さらに，李牧師を訪ねたが，彼もいい方法がなにも思いつかなかった。私は公文書を書いて拒絶してみたらと提案した。李牧師は即座に教会の名義で公文書を書いた。おおよその内容は，教会の農場であるから別の場所にして欲しいというものだった。私はまたこれを届けに行ったが，誰も受け取ってくれず，聞こえの良い話を山ほどして，ようやく簡単な受領書を書いてもらった。

帰ってくるとき，南門大街で偶然李牧師に会い，出来るかぎり敷地内に台を作られないようにして欲しいと頼まれた（そんなことは私だって分かっている。どうしてあなたが言うのか)。

家につくともう3時だった。腹が空き疲れた。少し食べると，いくらか元気が出た。また郷公所に行ったが，責任者に会えなかった。戻ってみるとすでに工事が始まっていたので，行って阻止したが，効果はなかった。張秉謙もやってきた。公式のルートやコネを使って交渉にあたってみたが無駄だった。李牧師もやってきて，北園の西北の隅にある小さな土地をやると言ったが，話が成立しなかった。夜にあれこれ物思いにふけりながら，1時に眠りについた。

2月5日　晴れ

朝，邵坦齋の弟がまた，北園の土地使用の件で私に会いにきた。私は南一帯の土地は湿っていて，踏みつけたら試験に影響を及ぼすので，西北隅の一角なら使ってもいいと答えた。

軍隊がまた体操しに行った。交渉はさらに難しいものだった。私は地形図を李牧師に書いてみせた。李牧師もたいへん怒っていた。李牧師は城内に行って交渉しようとした。はじめは私と一緒に行くつもりだったようだが，後から私は一緒に行かなくても良いと思ったようだ。邵坦齋の弟に出くわして，このことについて話し合った後で，私も一緒に行って欲しいとのことだった。農民協会には人がいなかった。さらに県政府に行き，まずは王秘書に会いに行った。江科長もやってきた。李牧師と

	江科長はしばらく話し合い，一緒に北園を見に行った。農民協会理事長の雷慕唐らは，ちょうど台の移動を指揮していた。案の定とても湿っているので，使えないということになった。交渉する必要がなくなった。
2月15日 曇り	戻ると，兵士が来て松の枝を欲しがり，コウリャンのわらも借りたいという話を聞いた。午後，兵士がまた二度来てコウリャンのわらを借りていった。薛漢臣は〔牧師〕さんが家にいないので，私は責任を負いかねると口実を作り，兵士を帰した。
2月16日	午後に兵隊が来て，小さな木の枝を欲しがった。何とかして帰らせた。 私が5時に帰ると，また木の枝を欲しがる兵士に会った。また二人の兵士が，はかりと借用書を持ってコウリャンのわらを借りに来た。私はそんな決定権はないと断って帰らせた。
2月17日 ときどき曇り	北園の木を見にいくと，トウサイカチの木がたくさんのこぎりで切られていた。アカシアの木も一本がのこぎりで切られていた。昼に誰が木を切ったのか聞きに行った。炊事係の中で自分がやったと認める人が一人もいなかった。士官たちに会いに行ったがみな留守だった。午後，また会いに行ったが，やはり会えなかった。軍隊が明日引き上げると聞いたので，もう交渉する必要はなくなった。 兵士が一人やってきた。私に会いにきたのではなく，張甫之（県農場の主任）に会いに来た。その兵士には県政府に聞きに行くようにと言った。
2月18日 曇り	兵士が一人，隠れに来た。ひそかに家に逃げ帰りたいのだという。
2月19日 曇り	町には「南関で去年の秋に，戦禍にあった難民は，ともに馮君校長に謝意を表しましょう」という宣伝ビラが貼られていた。また，「各界の皆さんや女性の方々に告げる書」もあった。これは，苦しみを訴え，役人の穀物の取立てを叱責した願い届けで，緑や赤の紙に，謄写版印刷だった。
2月21日 晴れ	多くの人が，時局がとても緊迫していると言っている。
2月22日 晴れ	またも北園で木を掘り起こしている者に話をつけに行った。
3月2日 晴れ	また兵士が来て，煉瓦や素焼きの瓦でトーチカを造ろうとしていた。私たちの敷地の素焼きの瓦を運ぼうとするので，20分以上もやりとりをした。私はその兵士と一緒に嵆牧師に会いに行こうとしたが，彼はいやがった。私が嵆牧師を呼びに行こうとしても，彼は待っていようとしなかった。そして兵士が私と一緒に彼らの士官に会いにいくことにした。数歩も歩かないうちにまた一人，兵士がやってきて，行かせまいとし，〔レンガを〕無理に運んでしまった。その後，また私と一緒に嵆牧師に会いに行こうとしたが，もう一人の兵士が行かせなかった。曹さんが嵆牧師を呼びに行って，私も後で行った。嵆牧師について英語を勉強しているある士官が，嵆牧師と一緒にやってきた。嵆牧師は彼らに〔レンガを〕運ばせなかった。その士官は姓を于（余）と言った。私たちは彼らに詳しく説明し，ことばを選び，

婉曲にお世辞を使い，人としての思いやりの話や国際的な影響など，たくさんの話をした。彼らはこれ以上〔レンガを〕持ってゆくのは悪いと思って（気が引けてしまい），帰ってしまった。荷担ぎ人夫はおよそ2，30個のレンガを運んでいっただけだった。あまりにも腹がたったので，おなかが空くのを感じなくなった。

3月6日 晴れ　車三台分のレンガを買った。私がちょうどレンガをおろそうとしていたら，兵士が一人やってきてレンガを欲しがった。説教すると彼はすぐ帰った。大門に行ってから，すでにたくさん〔のレンガ〕を持っていかれていたのだと知った。私は彼が持ち出すのを止めようとして，レンガをおろした。彼は人夫に車を押して早く行くことを催促した。車の上にはレンガがまだある。人夫がさらにいくつか〔のレンガ〕を運んできた。持っていかれたのは全部で10数個だった。

3月10日 曇り　兵士が花や木が欲しいといってきた。花園にある二本の小さな松を掘ろうとしたが，あげるとは言わなかった。彼らはまだ話がしやすかった。

3月14日 曇り　また兵士がやってきて部屋に宿泊したがったが，話をしたらすぐに帰った。もう一度来たが，話をしたらやはり宿泊しなかった。

また兵士が来て，麦わらをほしがった。持っていかせまいとしたが無理矢理に20斤あまり〔の麦わら〕を持っていった。

また兵士が来て，干し草をほしがった。60斤あまりを持っていった。

またも十数人の兵隊が来て，丁先生の大豆のわらを持っていった。一人の兵士につき5～10斤を持っていった。

またも二人の兵士が来て，一人の兵士は麦わらをおよそ10斤，もう一人は大豆わらを一抱え持っていった。

またも十数人の兵隊が丁先生の大豆わらを持っていった。嵇牧師が来ると，五,六人は〔大豆わらを〕抱えながら帰ったが，残りのものは何も持たずに逃げた。

一人の兵士が陳老三のコウリャンのわらを十個持っていって，2万元しか払っていかなかった。

またも一人の兵隊がやってきてコウリャンのわらを三つ，買っていった。2万元を払った。

午後にまた兵士がまきを買うためにやってきた。55斤の木の枝に5万元と値をつけると,高いと嫌がり,いらないと言って怒って帰った。その後にまた一人来たが,前のように買って帰った。

午後にまた兵士が来て，壁のレンガを解体していたので，やめさせたが無駄だった。どこに住んでいるのか，ついて見に行った。彼らの士官に会おうとしたができなかった。6，70個〔のレンガ〕が運び込まれていた。二日目，私は第一連隊の第三小隊に行き，小隊長に会った。やりとりをし，さらに嵇牧師の名刺も渡したが,〔彼はレンガを〕返したがらなかった。私は，建築物を壊したのだと言ったら，小隊長は怒って名刺さえも投

げ捨て，私を追い払ったが，すぐさま詫びを言った。私は戻って嵇牧師と李牧師に報告すると，彼らが連隊長に会いにいくことになった。
兵隊がまだ壁の解体をつづけているので，阻止したが，無駄だった。陳知文を呼んで嵇牧師を探しにいかせ，私は黄大隊長に会いに行った。黄大隊長は伝令兵に伝令させたが，伝令兵は力を尽くそうとせず，いい加減にしただけだった。そのとき，まだ三人の兵士がレンガを解体しているのに，伝令兵は〔命令が〕効いて，兵隊たちはもう解体しなくなったと〔大隊長に〕言った。大隊長は葛園から陳金声の家に宿を移していて，そこを通りかかった際に伝令兵を見かけた。彼に〔レンガを解体している連中は〕どの部隊のものだとたずねると，伝令兵は知らないと答えた。営長はレンガを解体する連中をすこし叱責した。
嵇牧師が副連隊長に会いに行くと，〔副連隊長も〕人を遣って彼の命令を伝えさせた。卜昭聚の案内で大隊長に会ってきた。帰ってきた嵇牧師は，大隊長が，これからはもう壁を解体しないし，すでに解体したレンガも送り返し，しかも代わって修理する。もし問題があれば趙さんが来て相談し解決すると約束したと話した。
またも兵隊が壁を解体しにきたが，交渉したら効果があった。
大隊司令部がまた借用書を書き，イスを 4 脚借りようとした。私は陳知文をやり嵇牧師にたずねさせた。李牧師は 2 脚ならば良いと言い，また二, 三日内に（こちらが）使うこともあわせて彼らに言った。彼らは知文が帰ってくるのを待たずに，公才に無理に手伝わせて運んでいってしまった。
誰かがノックする音を聞くと，私はいらいらしてくる。

3 月 15 日ときどき曇り

また兵隊が壁のレンガを解体しにきた。止めたが無駄だった。私が大隊長に会いに行くと言ったら，彼らは壊さずに逃げた。実は私は本当に大隊長に会いに行こうとしたわけではなかった。
またも，兵隊が西北の隅で壁のレンガを解体していた。東側でも絶えず解体されていた。その回数は記憶できないくらいだ。
第 1 隊の兵隊がやってきて松の枝を欲しがった。交渉したが無駄だった。南大門から二人が入ってきた。その内の一人は私と相談した。彼は話がよくまとまり，少しだけ木を切りたいと言った。その人は名前を洪子明といった。私が彼の名前を書きとめようとしたとき，ほかの兵隊が緊張して，〔書いた名前を〕見ようとした。文字が読めないくせに。
また兵隊が来て干し草を欲しがった。洪子明が行って止め，彼らに軍民合作センター[36] に行ってメモをもらってくるようにしたので，彼らはやっと帰った。
南側でまたも兵隊が壁のレンガを解体していた。洪子明が私と一緒に止めにいった。
また兵隊が来て四本の木の枝を欲しがった。

またも兵隊が壁のレンガを解体しにきた。私は公才をその兵隊の後について行かせ，どこに〔レンガを〕置いているのか確かめさせた。私は南関にいる李牧師に会い，一緒に連隊長に会いに行った。連隊長は二度電話をし，まずはもう二度と解体しないように，それから盗ったレンガを返すように命令した。連隊長に手書きの命令書が欲しいと言ったが，書いてくれなかった。帰ってから，もう一度解体しにきたことを聞いた。壁を見に行くと，壁のかなりの部分が解体されていた。人夫にトウサイカチで覆いをさせた。

3月16日　ときどき曇り

朝，まだ起床しないうちから兵隊が西北角で壁のレンガを解体していた。陳知文が話をつけに行った。兵隊は納得せずに帰った。だいだい五, 六個のレンガを壊していった。

朝ごはんを食べているとき，また兵隊が来て，東側の壁のレンガを解体しだした。話をつけに行ったが効果がないので，また大隊長に会いに行った。大隊長は返却すると答え，また修理するとも言った。また呉副官を視察に行かせ，私に彼をつれてレンガを探しに行くと指示した。東側のいくつかの穀物問屋にはレンガがほとんどみなあったが，ある中隊長が認めなかったので，副官はレンガを返すことへの態度を突然変えて，積極的ではなくなってしまった。私は彼と別のものを代用品としてレンガと交換して使うことを相談したが，彼は積極的ではなかった。

かつて，農事部の西南角から敷地の西北角に移したトーチカがなくなっていた。李体康に聞くと兵隊が解体したのだという。しかし，いつ壊したかは知らないという。

夕方，さらに兵隊が西の壁のレンガを解体しにやってきた。我々が行くと彼らは持ち出さずに逃げた。兵隊は全部で三人いた。

3月17日　曇り

二人の兵士が来て，張公才の家の干し草と麦わらを一抱え持ち帰ろうとした。非常に横暴だったが，一人だけは温和だった。

私はまた大隊長に会いに行った。陳書酬指導員が接見し，事情を聞いてから，解体された壁を見に行った。彼はしばらく借りて，後に返すことにしたいといった。彼は私と一緒に李牧師に会いに行った。井戸の東側の路上で立ち話をした。李牧師は返却を強く主張し，多くの刺激的な話をした。たとえば軍隊がもし理不尽なことをしたら，外国人に蔑視されるとか，人民の意思に逆らわず一般の人々と協力すべきだとかいう話だ。結局，私に彼をつれてレンガを見に行かせようとした。私は行きたくなかった。見に行っても無駄だと思ったからだ。李牧師が私を行かせようとするので，私は彼と一緒に行った。昨日レンガを見た場所だった。彼は多くのことを認めなかった。最初にレンガを解体した兵士の部屋に行くと，認めるどころか愚痴をこぼした。小隊長は連隊長の内務視察の終了を待ってから返却すると言った。指導員も同じように言っていた。

兵隊が鉄砲立てをつくるための材木を探しにきた。適当にあしらって二本だけを渡すと帰った。木を切るのが阻止されたら，

帰った兵士もいた。
呉副官が5束の干し草を借りていった。

3月19日 曇り　朝食を食べ終わらないうちに兵隊がまきを借りに来た。聞こえのいい言葉で協議し，75斤の湿った木の枝を貸してやった。

3月20日 曇り　李恒廉の妻が，兵隊が撤退したと知らせに来た。さっそくレンガを探しに行ったら，知文や公才がすでに行っていた。6時半ごろ私は出かけて，各穀物問屋で探しておよそ500個あまりのレンガを見つけた。二ヶ所にも彼らのレンガもあるというから，もう一度レンガを確認して，私たちのレンガだけを持ってきて，薛漢臣に見張らせ，私たちは帰って食事をとった。時刻は8時15分になっていた。
聞くところによると，王作岳が兵隊に「軍隊の人夫」としてつれて行かれたという。私はすぐに食事を終えて（王作岳の弟と母親がみんな彼を探している），錫栄に信維を連れて咳と喉のかすれの診察に行かせ，人夫に，ラバの車でレンガを運ぶようにさせた。私は王作岳を探しに汽車の駅に行った。駅では王運江に偶然会った。彼はまえに王作岳が兵隊のために荷物を運んでいるのを見ていた。私は駅の構内を見たがどれも兵隊ばかりで，士官の奥さんやお茶を売っている者はいたが，一般の人はいなかった。帰ってきた私はレンガを見張った。人夫がレンガを運んでいる。王作岳も帰ってきた。胸のつかえが取れた。王作岳にレンガを見張らせ，私は壁の修築を見に帰った。
東関第一中心学校の徐先生がレンガを探しに来た。彼らの学校のレンガも兵隊によっておよそ200個がここに運ばれてきたが，今は一つもないという。私は私たちも600個ほどのレンガが行方不明になって，まだ全部見つかっておらず，もし，私たちが壁を修築した後にレンガが余ったらあげると約束した。彼は一方だけが円満におさまるわけにはいかないとし，私たちにいま〔レンガの〕一部を分けてほしいとした。私は同意せず，一緒にレンガを見に行った。車いっぱいにレンガが荷造りされていたが，彼はそれを行かせまいと迫力をみせている（会ったばかりの時に彼はどこかの部署で働いていて，公務を持ち出すときは〔二つの仕事を〕兼任しているのだと自己紹介していた）。私は気にしなかった。私が大事なことを話しながらレンガを運んで帰ろうじゃないかと言った。公務室で長い間話してから，また一緒に解体された壁と運ばれたレンガを見に行った。どうやらレンガは多めに出てきたらしい。最後に彼は私の知らせを待つと言って帰った。私は一心不乱に彼と交渉した。
1時半，昼食を食べ終わると，また人夫を雇いレンガを運ばせた。陳景望の家と美成という穀物問屋の二ヶ所で，さらに130あまりのレンガを見つけて回収した。
かつて大隊長が借りたイスは陳金声の家で3脚しか見つからなかった。1脚は行方不明になった。陳金声が東の方に探しに行ったが，見つからなかった。私は陳知文と一緒に誠善堂や各穀物問屋に行ったが，やはり見つからなかった。

	また，呉副官が借りていった干し草を見つけて回収した。
3 月 25 日　ときどき曇り	栄任大隊の王小隊長が花や木が欲しいと言ってきた。彼にハナズオウ〔紫荊〕の株をいくつかあげた。
3 月 30 日　晴れ	兵隊が来て（私は家にいなかった），花や木を数本引き抜いて帰っていった。
3 月 31 日曇り	また私が家にいなかった（午後）とき，兵隊が来てハナズオウの株をいくつかと，青桐を一株引き抜いていった。
4 月 1 日　晴れ	兵士が一人来てコウリャンのわらを一つもらって帰った。 たくさんの兵隊が来た。みな空き地に座って休息していた。 ある兵士が花が欲しいと言ってきた。ないと教えると，見て回ってから帰った。
4 月 2 日　晴れ	余ったレンガを東関第一中心学校（つまり観音堂小学校）に返すことにした。徐先生は生徒をつれてレンガを運びにきた。
4 月 3 日　晴れ	兵隊が，花が欲しいと言ってきた。礼儀があったので彼らには草花の株をいくつかあげた。
4 月 6 日　晴れ	午後，ある兵士が，花が欲しいと言ってきた。彼にはハナズオウをひと株あげた。
4 月 16 日	ある兵士がのこぎりを借りにきた。〔その兵士の〕符号〔その人の軍服に記された〕をこちらに取り置いて貸した。昼になって返しにきたので，符号も彼に返した。 昨夜，南関の見張り台の兵隊の銃が，8 丁奪われた。
4 月 17 日　晴れ	また兵隊が来た。敷地内を見て回っただけで，宿泊しなかった。 夜 8 時，兵隊が門をたたいていると公才が言う。私が見に行くと，兵隊がすでに薛漢臣の家の裏まで来ている。コウリャンのわらを買うか借りるか協議したが，彼らに砕いたわらを少しあげた。 しばらくして薛漢臣がまた来て，誰かが壁のうえからコウリャンのわらを盗んで，しかも一部の花模様の瓦を倒していると知らせた。盗まれたのは陳さんの家のコウリャンのわらで，花模様の瓦は外に向かって落ちていたので，レンガと瓦を運び入れた。
4 月 19 日　晴れ	たくさんの兵隊が北園の敷地内に集合していた。私が話をしにいくと，連隊長と交渉すべきだと言われた。私はまた嵆牧師を訪ねた。途中で嵆牧師が「門を閉めていこう。兵隊が来ると面倒だから」と言った。私も「本当に面倒だ」と答えた。 連隊司令部は福音村 5 号の童先生の奥さんの家に設置された。連隊長は 2 時間しか使用しないと言った。交渉して使用時間は 30 分にして，その後，別の場所を探すことにしてもらった。 嵆牧師と一緒に〔連隊司令部を〕出てから，軍隊がすべて西に移動して，北園の敷地を出るのを見た。 午後，軍隊がまたも北園の敷地にやってきた。私はもう再度の話し合いはしなかった。夕方，兵士が一人やってきて，まきやわらを買うか借りるか協議していて，長い間つきあった。私はまきを 15 斤，彼に売ってやった。1 斤 2 千元の値をつけた。
4 月 21 日　晴れ	中国が憲法によって任命する最初の大総統に，蒋中正が 2,430

票で当選した[37]。

午前，兵隊がコウリャンのわらを借りにきた。たくさんのお世辞と気を使って，ようやく貸さずに済んだ。

4 月 24 日 三人の軍人が来て，農事部見学について打ち合わせをした。装甲大隊の第一連隊の者たちで，6，70 人はいるという。条件は植物を損なわないことだった。しばらくしてやってきたが，ただ天候を見ていただけだった。

5 月 20 日 晴れ　今日，大総統が就任した。

5 月 31 日 曇り　時局は緊迫していた。軍隊の統率が乱れ，凌家橋が昨夜爆破された。陳毅の二つの縦隊がかかわっているらしかった。

二人の士官が部屋を見にきた。敷地内で軍用施設をつくり，一小隊の兵士を宿泊させたいらしい。李鴻勛に会いに行くと，彼は拒絶する様子がなく，二人の士官に会うと，快諾し，できる限り便宜をはかった。薛漢臣の部屋に彼らを宿泊させようとした。私が掃除をしていた。李鴻勛も行った。

宿泊する兵士は装甲大隊の第一連隊第三小隊で，小隊長は姓を曹といった。副小隊長は，李培基といい，話し方は丁重だった。荷車を機関銃の席にし，機関銃を壁の上にかけることになった。丁震亜が夜に麦を刈らせてほしいと申し出てきた。

注

1）　中華人民共和国建国までの宿州は，城壁に囲まれた町であった。

2）　城隍は中国の土地神の一種である。城壁に囲まれた大きな町の陰・陽両界の支配者が城隍神とされ，人間の生前の悪事を部下の土地神たちに見張らせ，死後それを裁く。宿州の城隍廟は宿州市城区勝利路に位置している。唐代の建物と推定されている。1941 年日本軍の爆撃によって半分が崩壊されたが，1960 年代の文化大革命のころ，完全に崩壊された。いま，城隍廟は地名として残ってはいるが，廟の建物はもう存在しない。

3）　私立啓秀女子小学校（のちの宿州啓秀中学）のことである。宿州キリスト教会が 1914 年大河南街の西側に作られた初めての女子校である。

4）　日記本文の〔〕は論文の筆者が入れたものであり，（）は日記の執筆者趙生祥氏がつけたものである。以下同様。

5）　宿州キリスト教会が 20 世紀初期に宿州の南郊外に作った村。

6）　1944 年，1946 年の東トルキスタン共和国をはじめ幾度かウイグル人主体の独立政権が試みられた。

7）　東三省は，奉天，吉林，黒龍江の三省を指す。

8）　この時期の宿州は国民党政権支配下にあった。1946 年 5 月国防部陸軍総司令に昇進した顧祝同は国共内戦のために，30 万の軍勢を率いて共産党側の中原解放区へ進撃した。1948 年秋には国防部参謀総長となり，南進してくる中国人民解放軍を迎え撃った。

9）　保甲長は，民国期の中国において行政の最末端組織の責任者である。10 戸で「甲」を，10 甲で「保」を編成する。宋代から始まった保甲制度は，中華人民共和国成立時に廃止された。その間に保甲の名称が同じでも時代によってその内容と機能が違っていた。

10）　農事部とは，アメリカ北長老会が宿県城外の東南の郊外に創設した「農業科学試験部」（今，東昌路にある宿州市委党校となっている）である。

11）　丁震亜は当時農事部で働いていた複数の中国技師の一人である。

12）　錫栄は筆者の妻である。

13）「伏天」は夏至から数えて 3 番目の庚（かのえ）の日以後の 30 日間のことを指し，夏の最も暑い時期とされる。

14）　1916 年宿州キリスト教会が宿州の郊外，南関に創設された民愛医院（Good Will Hospital）

という総合病院のことである。

15）郷公所はかつて国民党時代の政府役場の名前だった。現在台湾では依然として使われているが，中国ではもう使われていない。郷政府という名前で使われている。中国の地方行政は主に省，市と県の三つのレベルから構成されている。「郷」は県がその管轄下に置く農村部の末端行政区画単位である。

16）竹や木の枝で編んだ箕形のもっこである。主として家畜の糞を拾う時につかうが，土や砂利などを運ぶときにも使う。

17）全称は，万国道徳会であり，孔教会，道徳会，万字会ともいう。建国前に宿県の城内，大店，時村などで伝教活動が行われていた。教徒が514人ぐらい。建国後，人民政府によって取り締まられた（安徽省宿県地方志編纂委員会 1988: 385）。

18）抗日戦争が終了した時に国民党軍の138師が宿県に駐在していた。

19）薛岳（1896年12月27日–1998年5月3日）は，国民党陸軍の一級上将。1946年6月に内戦が勃発した時に，薛岳は，徐州綏靖公署の主任に任命された。

20）郝鵬挙（1903年1月29日–1947年4月）は中華民国の軍人。1946年1月，郝は劣勢の状況を悟り，また，中国共産党からの働きかけもあったため，突然，山東省嶧県駐屯中の共産党軍隊の責任者の陳毅を訪問して起義を宣言し，しばらくは共産党陣営の指揮官として活動する。ところが，1年後の1947年（民国36年）1月，郝鵬挙は，今度は反共宣言を発し，海州で国民党側に復帰した。郝は即座に隴海線東端の解放区に向けて進攻したが，人民解放軍の反撃も迅速で，翌月，郝は早くも軍を殲滅され捕虜とされた。郝は陳毅との面会を求めたが，陳毅は郝に会うなり，その背信行為を厳しい言葉で非難したとされる。同年，郝鵬挙は北方へ護送される途中，機を見て逃亡を図ったが，警護人員に発見され，射殺された。

21）八路軍は，現在の中国人民解放軍の前身のひとつ。1937年8月25日に中国工農紅軍と西北紅軍はともに解散し，新たに中国国民革命軍第八路軍と改組され，一般に八路軍と呼ばれることになる。

22）三里湾は宿州の南郊外にあり，農事部に近い村の名前である。

23）宿州キリスト教会の牧師生煕安の妻のことである。当時，多くの市民が内戦を恐れて内地の西安などのところに行って一時避難した。

24）民国35年（1946年）県立農林場が県立農業推広所に変えられた。1947年の時点では，安徽省は39の県立農業推広所があった。

25）県党部は国民党政権において地方自治監督の主要機関として規定されていた。国民党政権の地方党部について，岩谷将の論文「中国国民党訓政初期の理念と実態―地方自治政策における地方党部を中心として」（岩谷 2006）が詳しく論じている。

26）馮毓淑は当時啓秀女子校の校長である。

27）新四軍は中国工農紅軍が第二次国民党・共産党合作により華南地区で再編された軍隊組織。正式名称は国民革命軍新編第四軍，別名陸軍新編第四軍。主力は中国共産党軍であった。

28）邵某は，筆者と幼なじみで，同じキリスト教徒である。そのとき，教会学校である啓秀女子校で教鞭を執っていた。

29）国民党魯道源の五十八師が宿県の津浦鉄路沿線を支配した（安徽省宿県地区地方志編纂委員会 1995: 34）。

30）行政督察専員公署のことであり，省と県の間に設置された行政組織である。抗日戦争終了後，宿県，霊壁県と泗県は安徽省第四行政督察専員公署に属していた。

31）行政専署の最高責任である。

32）県政府が発行した地方貨幣のことである。

33）1928年国民政府主席に就任し，1948年までに在任した蒋介石のことである。

34）宿県南関農民協会と郷政府が共催したローカルなイベントである。その時代を生きてきた同じ安徽省の方々に「農民節」のことについて聞いたが，「農民節」を見たこともないし，その言い方を聞いたこともないと答えている。

35）宿県南関農民協会は，民国13年（1924年）冬，王運同（別名王理風）によって宿県南郊外の三里湾で創設された。

36）原文は軍民合作戦と書かれてある。おそらく日記の筆者がセンターを表す站を「戦」に間違えただろうと推測している。民国時期に県などの地方政府に作られた，国民党軍隊の必要な物質の供給や，負傷者などを扱うセンターである。

37）蔣中正は蒋介石のことである。中華民国総統（在任1948–1975）。字（あざな）は中正。1948年，中華民国の初代総統に就任した。

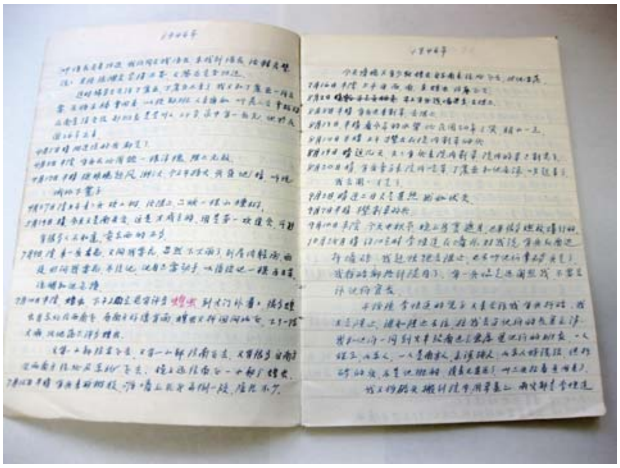


写真 1　趙昇祥の日記　2009 年　韓敏撮影

写真 2　宿州キリスト教会福音堂の入り口　1990 年　韓敏撮影

写真 3　宿州福音堂の日曜礼拝　1995 年　韓敏撮影

写真 4　宿州キリスト教会の牧師　1989 年　韓敏撮影

写真 5　牧師が伝道士育成コースのメンバーに聖歌を教えている
1990 年　韓敏撮影

写真 6　ロッシング・バックとパールバックが住んだことのある宿州教会の宿舎　1995 年　韓敏撮影

写真 7　宿州教会の宿舎の内部　1995 年　韓敏撮影

写真 8　宿州城壁　1995 年　韓敏撮影